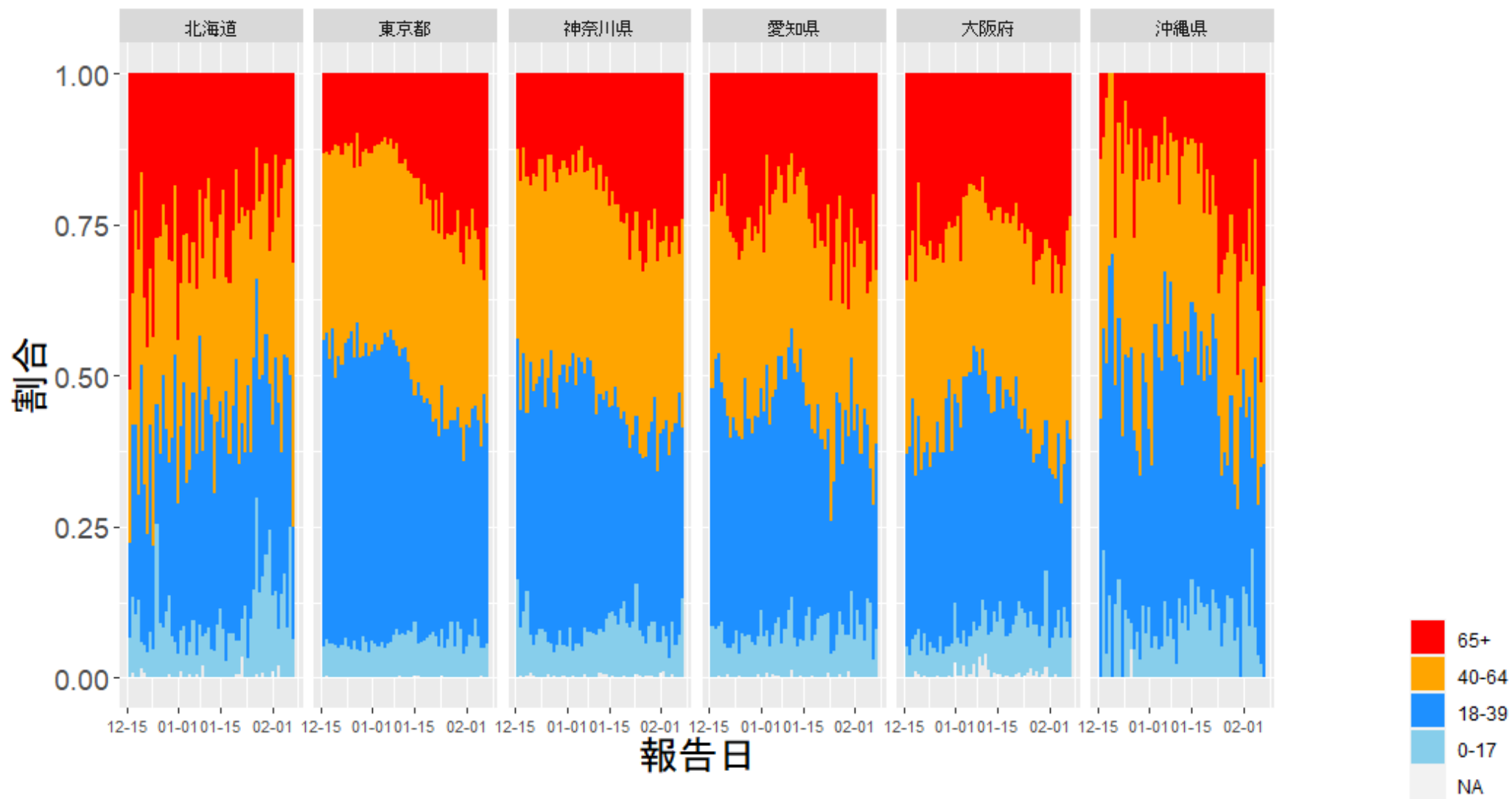
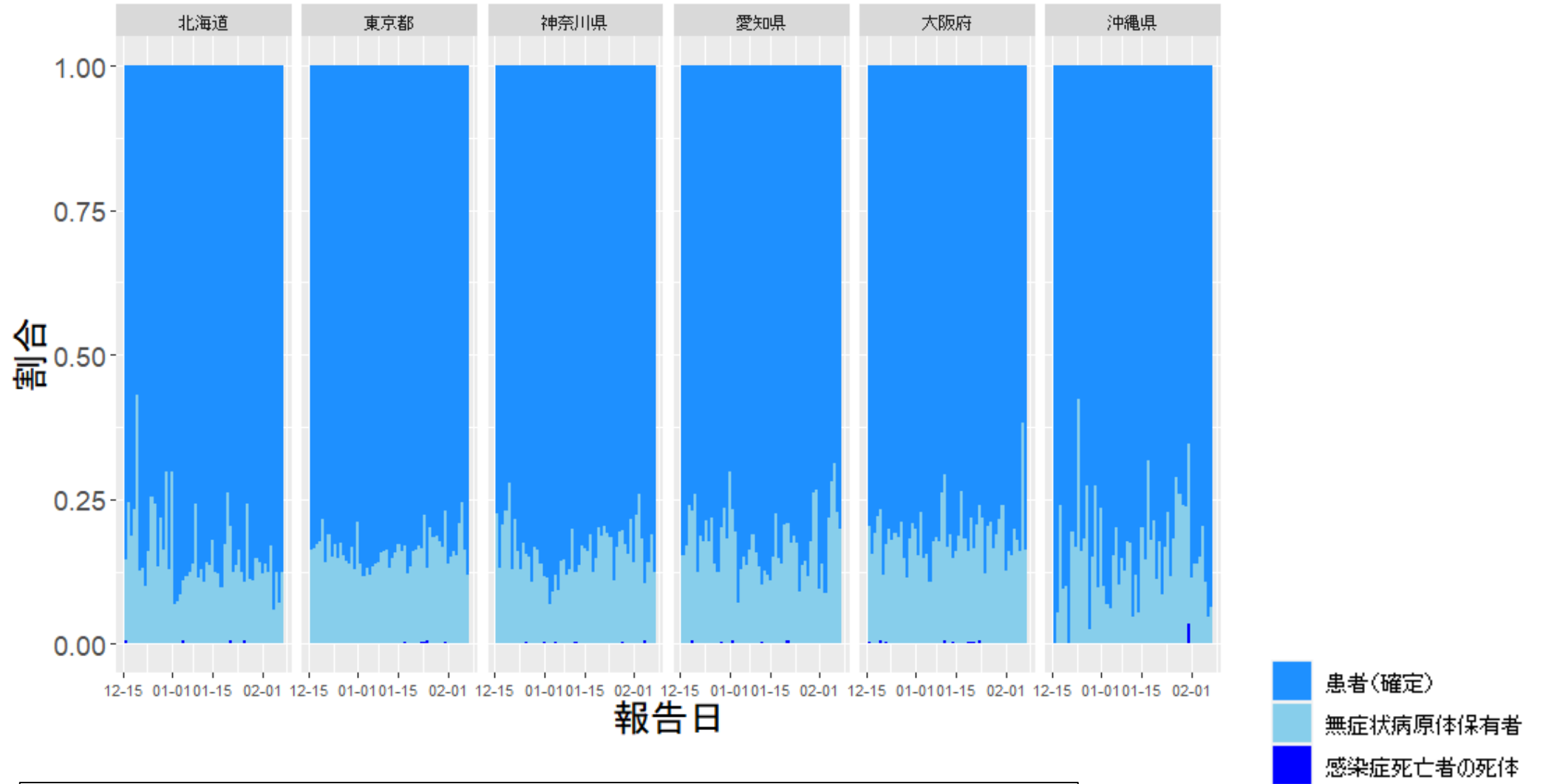


年齢群分布の推移：都道府県、報告日別



届け出時点の病型分布の推移：都道府県、報告日別



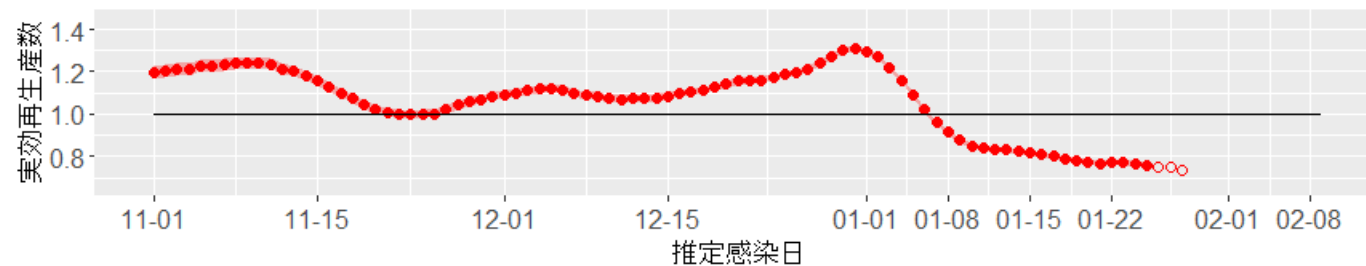
HER-SYSデータに基づく。

(注) 感染症死亡者の死体：死後に新型コロナウイルス感染症によるものと判断された者

全国の実効再生産数（推定感染日毎）：2月10日作成

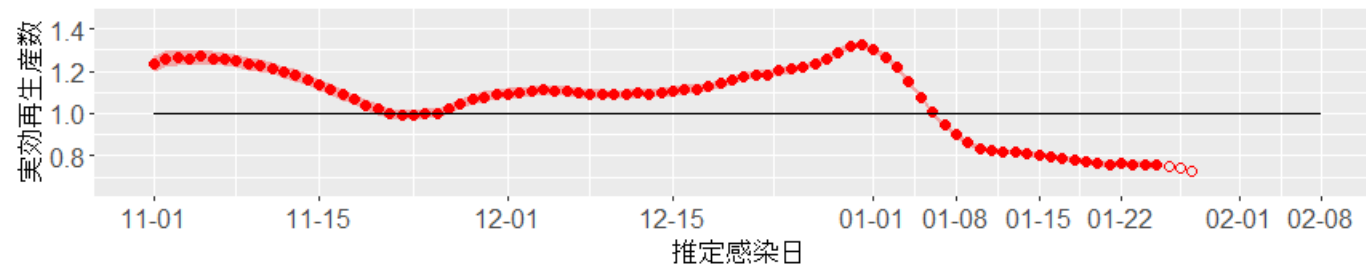
全国

1月25日時点Rt=0.76 (0.75-0.77)



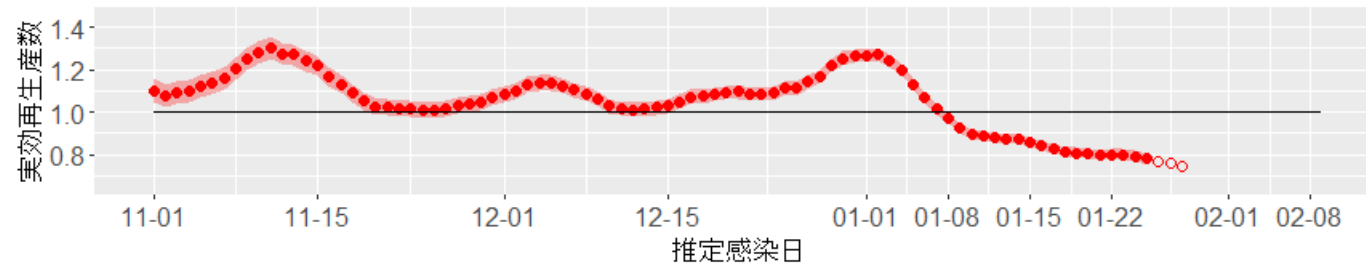
緊急事態宣言対象地域：10都府県

1月25日時点Rt=0.75 (0.74-0.77)



緊急事態宣言非対象地域：37道県

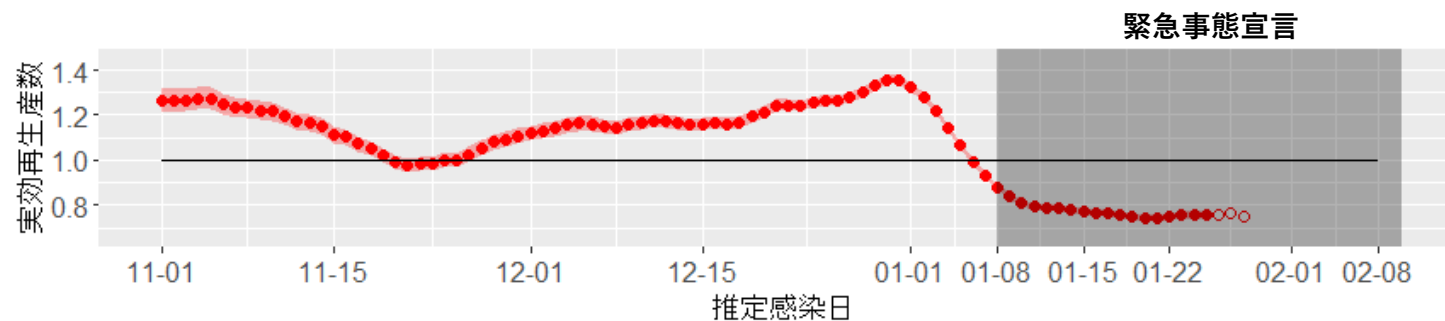
1月25日時点Rt=0.78 (0.75-0.81)



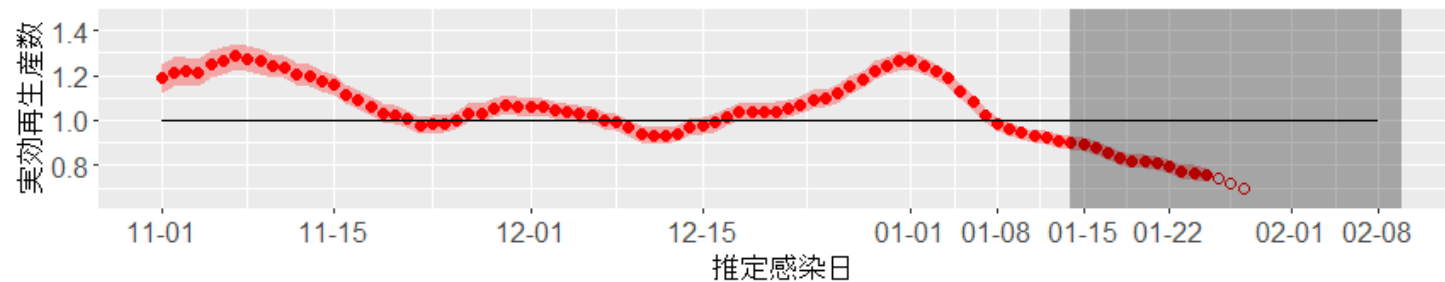
実効再生産数は推定感染日（発症日あるいは発症日不明例については推定発症日から潜伏期間をさかのぼることで推定）ごとにCori et al. AJE 2013の方法でwindow time=7で推定した。16日前までの推定値を赤丸、報告の遅れのために過小推定となっている可能性が高い13日から15日前までの推定値を白丸で表し、それよりも直近の値は表示していない。括弧内の値と図中の赤帯は95%信頼区間を表す。なお、発症日の入力率、公表率は自治体によりばらつきが大きく、また事後的に修正される可能性があるため、値は暫定値である。

緊急事態宣言対象地域の実効再生産数（推定感染日毎）：2月10日作成

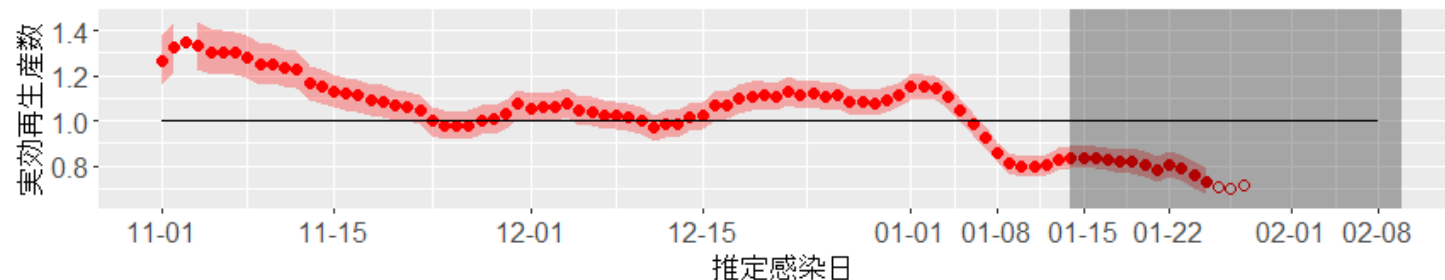
首都圏：東京、神奈川、千葉、埼玉
1月25日時点Rt=0.76 (0.74-0.78)



関西圏：大阪、京都、兵庫
1月25日時点Rt=0.76 (0.73-0.79)

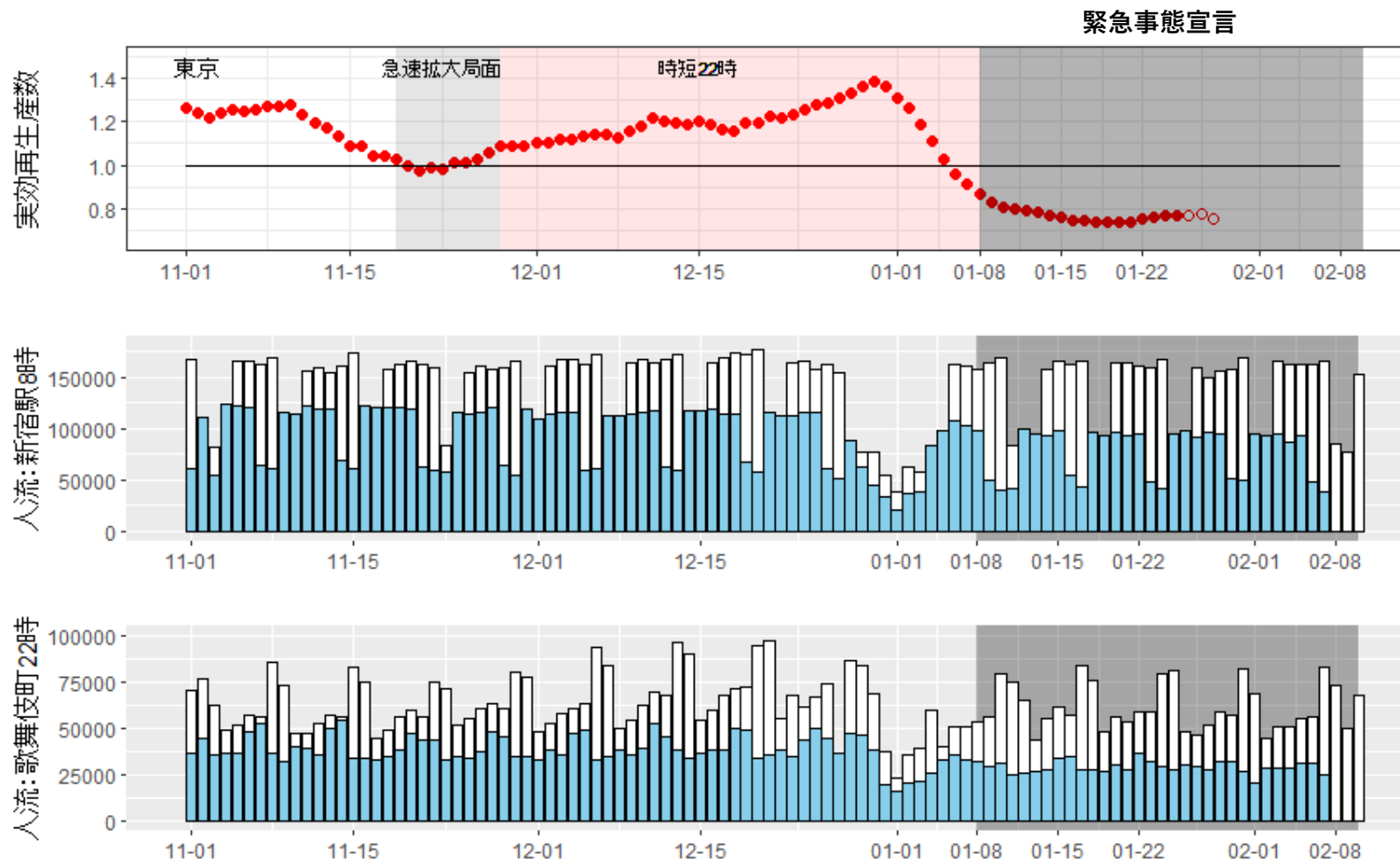


中京圏：愛知、岐阜
1月25日時点Rt=0.73 (0.68-0.79)



実効再生産数は推定感染日（発症日あるいは発症日不明例については推定発症日から潜伏期間をさかのぼることで推定）ごとにCori et al. AJE 2013の方法でwindow time=7で推定した。16日前までの推定値を赤丸、報告の遅れのために過小推定となっている可能性が高い13日から15日前までの推定値を白丸で表し、それよりも直近の値は表示していない。括弧内の値と図中の赤帯は95%信頼区間を表す。なお、発症日の入力率、公表率は自治体によりばらつきが大きく、また事後的に修正される可能性があるため、値は暫定値である。

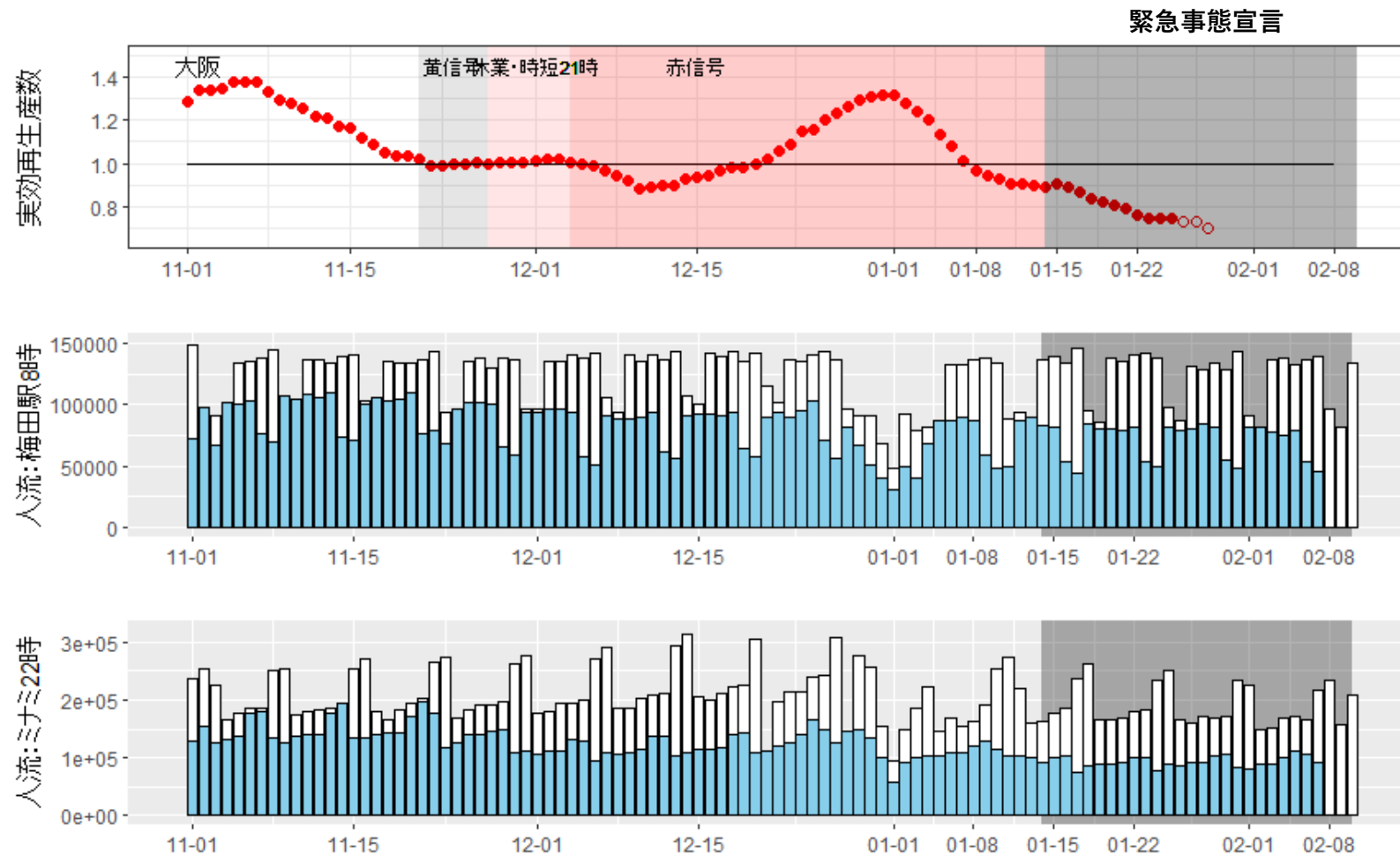
東京都の実効再生産数（推定感染日毎）と人流：2月10日作成



白 = 2019-20年
赤 = 2020-21年

実効再生産数は推定感染日（発症日あるいは発症日不明例については推定発症日から潜伏期間をさかのぼることで推定）ごとにCori et al. AJE 2013の方法でwindow time=7で推定した。16日前までの推定値を赤丸、報告の遅れのために過小推定となっている可能性が高い13日から15日前までの推定値を白丸で表し、それよりも直近の値は表示していない。人流データは株式会社Agoopのものを用いた。

大阪府の実効再生産数（推定感染日毎）と人流：2月10日作成

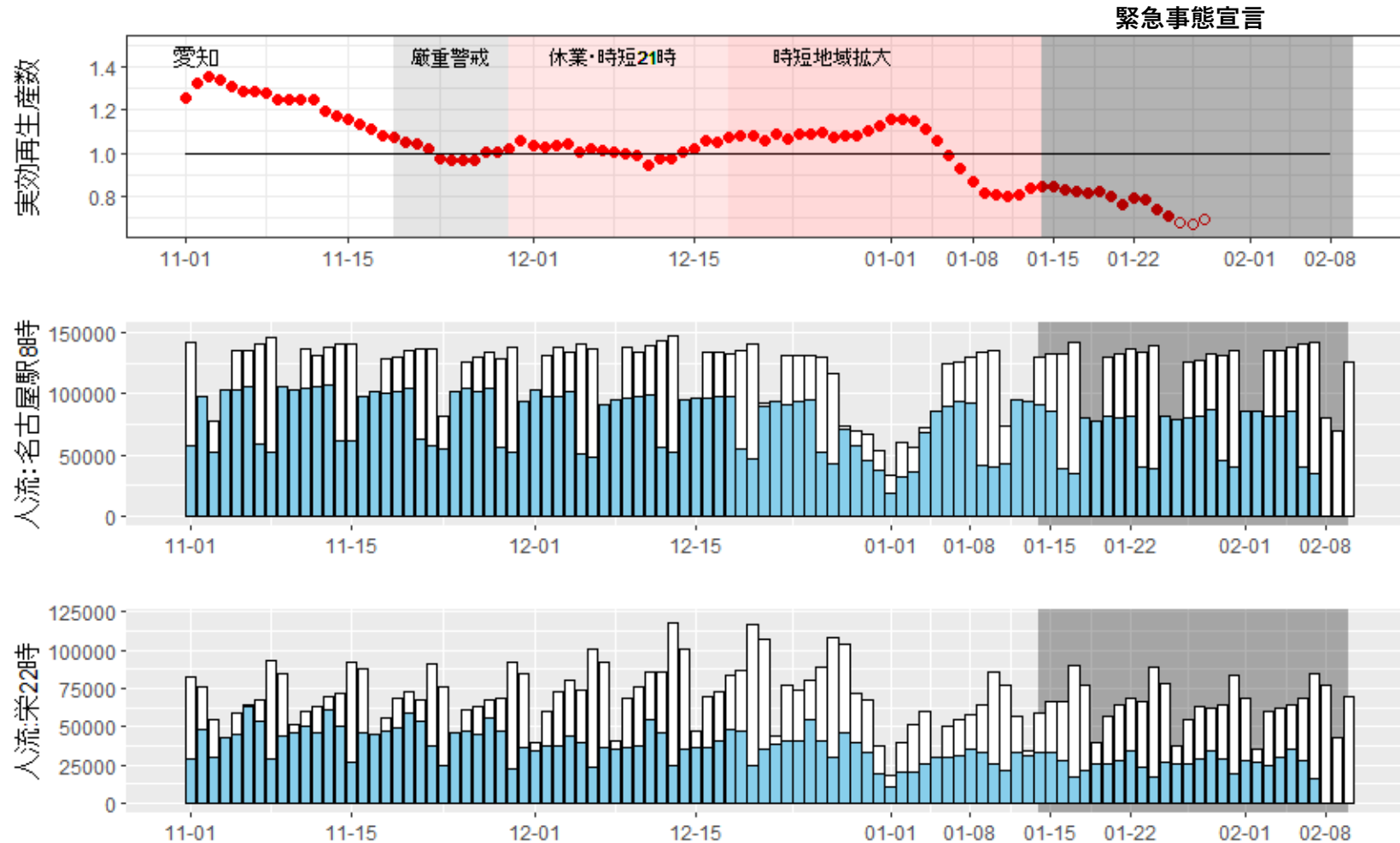


白 = 2019-20年
赤 = 2020-21年

実効再生産数は推定感染日（発症日あるいは発症日不明例については推定発症日から潜伏期間をさかのぼることで推定）ごとにCori et al. AJE 2013の方法でwindow time=7で推定した。16日前までの推定値を赤丸、報告の遅れのために過小推定となっている可能性が高い13日から15日前までの推定値を白丸で表し、それよりも直近の値は表示していない。人流データは株式会社Agoopのものを用いた。

愛知県の実効再生産数（推定感染日毎）と人流：2月10日作成

発症日データの不足のため実効再生産数は多くの推定に基づく値である

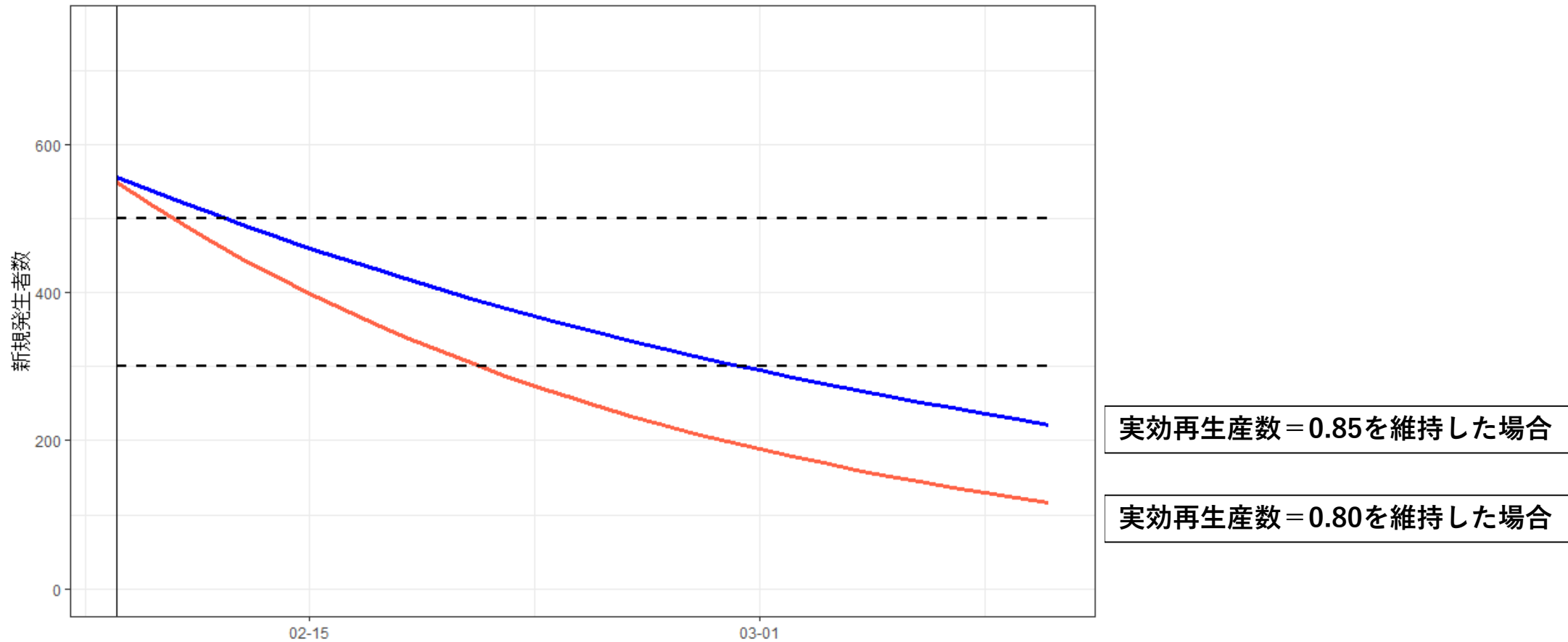


白 = 2019-20年
赤 = 2020-21年

実効再生産数は推定感染日（発症日あるいは発症日不明例については推定発症日から潜伏期間をさかのぼることで推定）ごとにCori et al. AJE 2013の方法でwindow time=7で推定した。16日前までの推定値を赤丸、報告の遅れのために過小推定となっている可能性が高い13日から15日前までの推定値を白丸で表し、それよりも直近の値は表示していない。人流データは株式会社Agoopのものを用了。

シミュレーション：東京都を想定

2月9日時点で一日報告数550と仮定



実効再生産数 = 0.85を維持した場合

実効再生産数 = 0.80を維持した場合

直近（4週：1/25~1/31）のインフルエンザ動向

サーベイランス指標（情報源）	レベル	トレンド	コメント
定点当たりのインフルエンザ受診患者報告数 （NESID*、約5000定点）	低 （0.01 [患者報告数 64例]）	横ばい	49週63例、50週57例、51週70例、52週69例、53週69例、1週73例、2週65例、3週64例、4週64例
全国の医療機関を1週間に受診した推計患者数 （NESID*、推計）	低	横ばい	約0.1万人（95%信頼区間：0～0.2万人）
基幹定点からのインフルエンザ入院患者報告数 （NESID*、約500定点）	低	増加	49週3例、50週5例、51週2例、52週6例、53週9例、1週7例、2週8例、3週3例、4週8例
病原体定点からのインフルエンザウイルス分離・検出報告数（NESID*、約500の病原体定点）	低	横ばい	2/9現在、36週以降、43～44週に2例 （A(H1)pdm09） （データは毎日自動更新）
インフルエンザ様疾患発生報告数（全国の保育所・幼稚園、小学校、中学校、高等学校におけるインフルエンザ様症状の患者による学校欠席者数）	低 （休校0、学年閉鎖0、 学級閉鎖0）	横ばい	36週以降、37週に学年閉鎖1、43週に学級閉鎖1（北海道）、44週に学級閉鎖1（福岡県）、45～3週は0、4週は0
国立病院機構におけるインフルエンザ全国感染動向（全国141の国立病院機構各病院による隔週インフルエンザ迅速抗原検査件数、陽性数）	低 （1/16~1/31:検査数 2773、陽性数3例、 陽性率0.11%）	横ばい	3例（A型3例）（1月前半はA型2例B型1例。12月後半はA型4例。12月前半はA型2例。）（検査は、診察医師の判断による）
MLインフルエンザ流行前線情報データベース（主に小児科の有志医師による自主的なインフルエンザ患者報告数 [迅速診断検査]）	低	横ばい	2/9現在、12月以降、12/2にA型1例、12/18にB型1例、12/25にA型1例、1/4にB型1例、1/9にB型1例、1/18にB型1例、2/3にA型1例 （データは毎日自動更新）

*2021年第1週からレベルマップ開始：https://nesid4g.mhlw.go.jp/Hasseidoko/Levelmap/flu/new_jmap.html

人口10万人あたりの7日間累積新規症例数の推移：年齢群別

使用データ

HER-SYSと自治体公開情報データ（2月10日時点）

対象地域

- 緊急事態宣言が発出された栃木、埼玉、東京、千葉、神奈川、愛知、岐阜、京都、大阪、兵庫、福岡および北海道、宮城、広島、沖縄

解釈時の注意点

- HER-SYSに基づく値は、特に直近1週間については報告遅れのために過小評価となっている可能性があり、その程度は自治体によって差がある（図の灰色部分）
- 自治体公開情報データに基づく年代別の値は、年代を非公表としている症例が多い自治体については過小評価となる
- どちらのデータも完全ではないため、両者を用いた評価が必要である

まとめ

首都圏：依然として20-30歳代の陽性者数が人口当たりで最も多く、高齢世代の減少が他の地域に比べて緩徐である

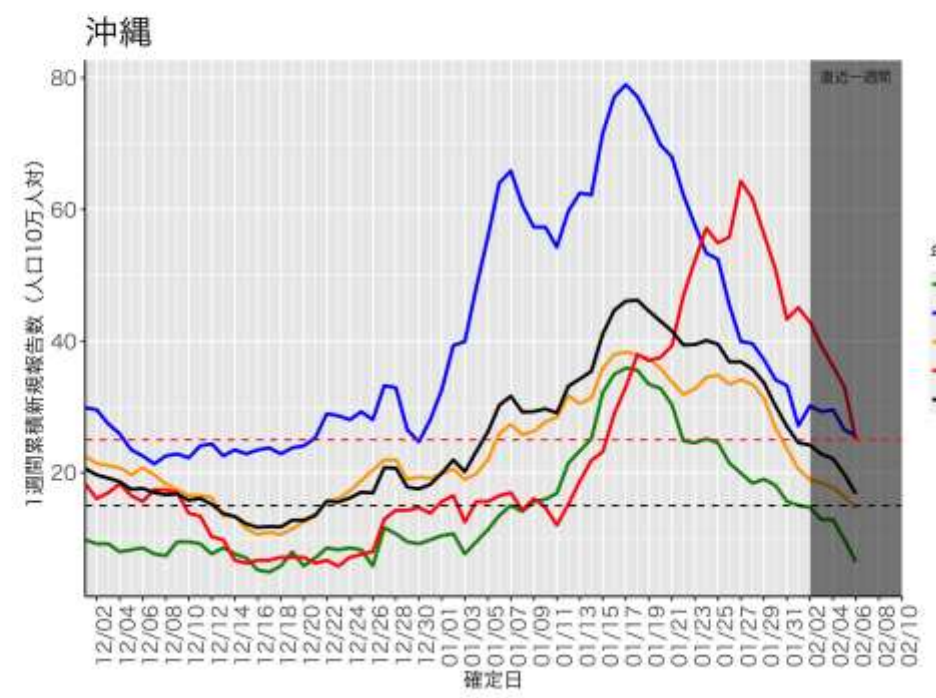
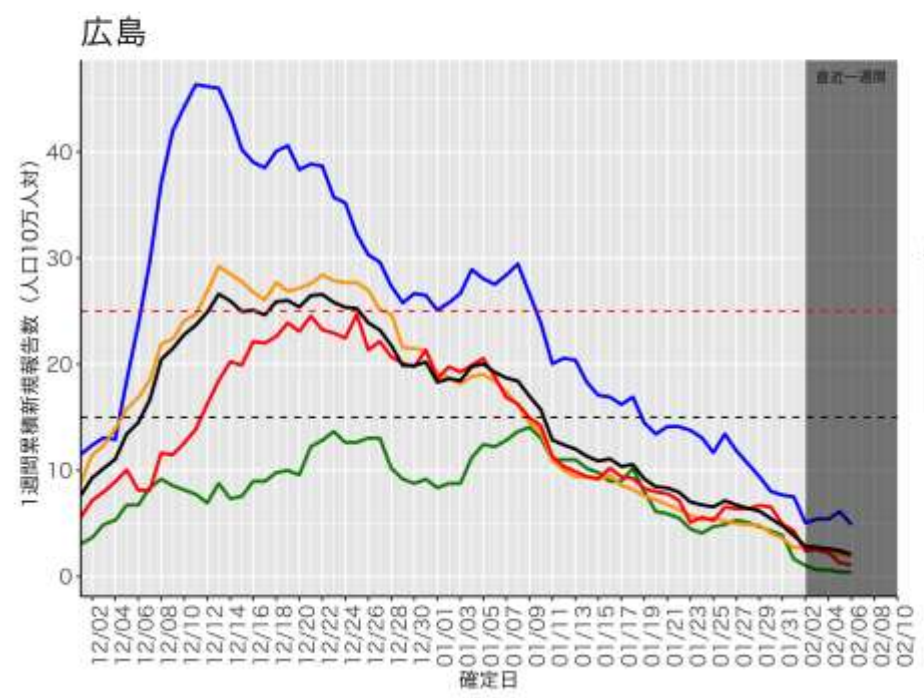
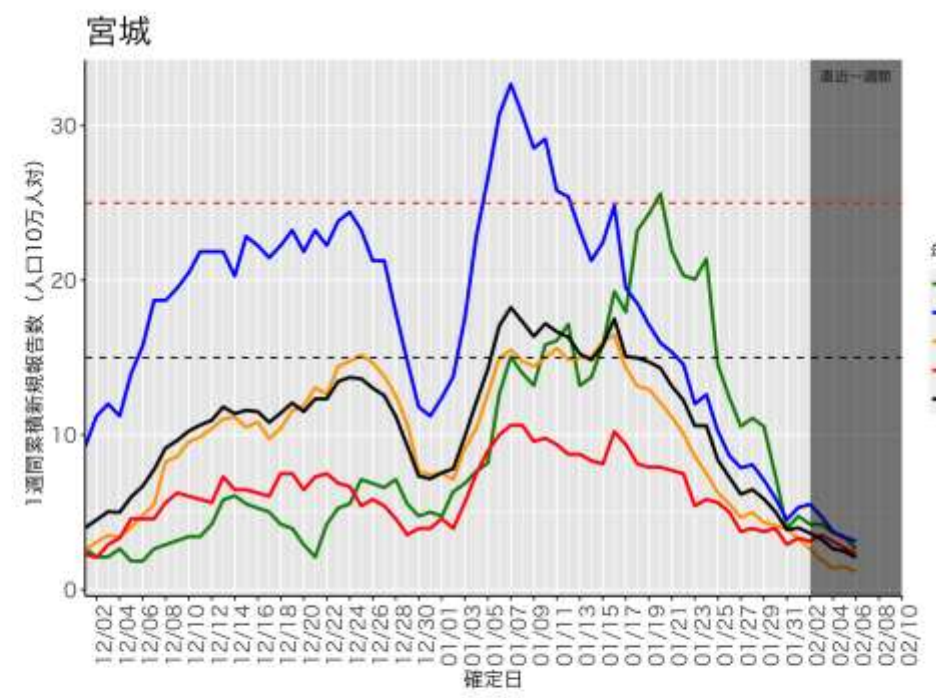
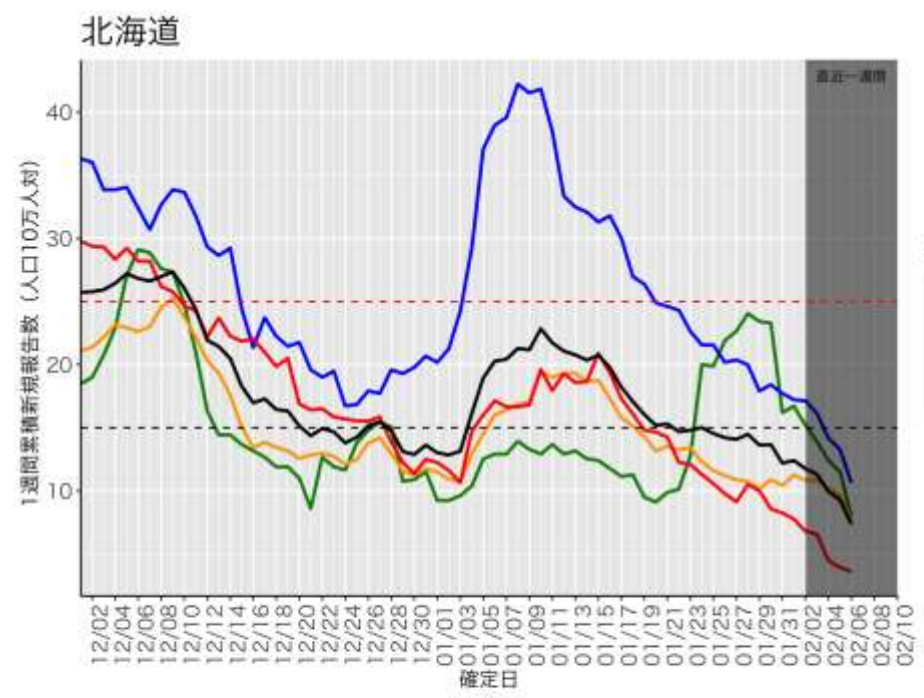
中京圏：愛知県は全世代で減少傾向であるが、岐阜県は直近で20-30歳代が増加傾向にある

関西圏：全世代で減少傾向であるが、高齢者が相対的に多い傾向がある

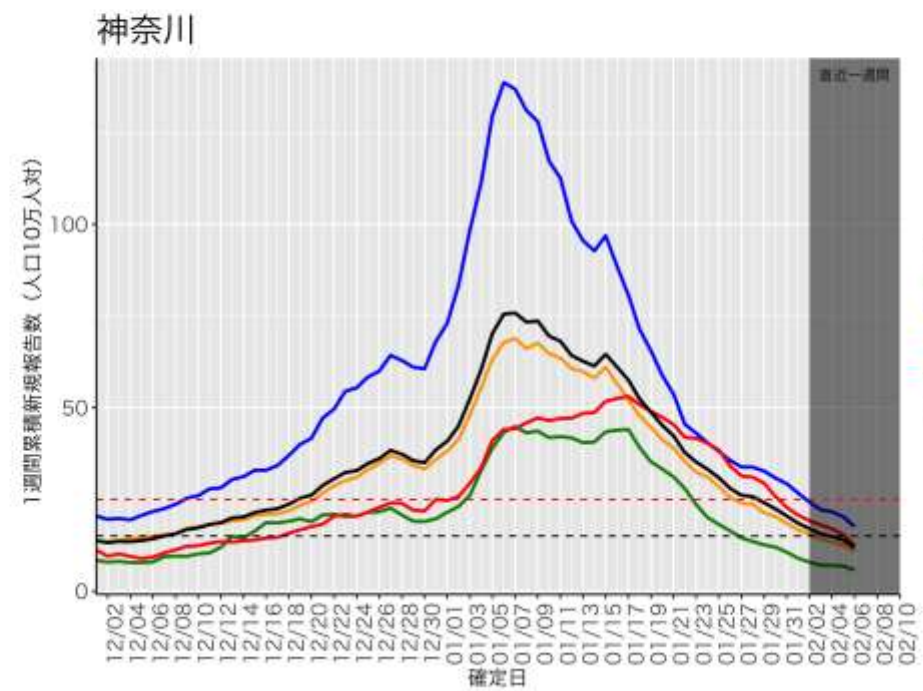
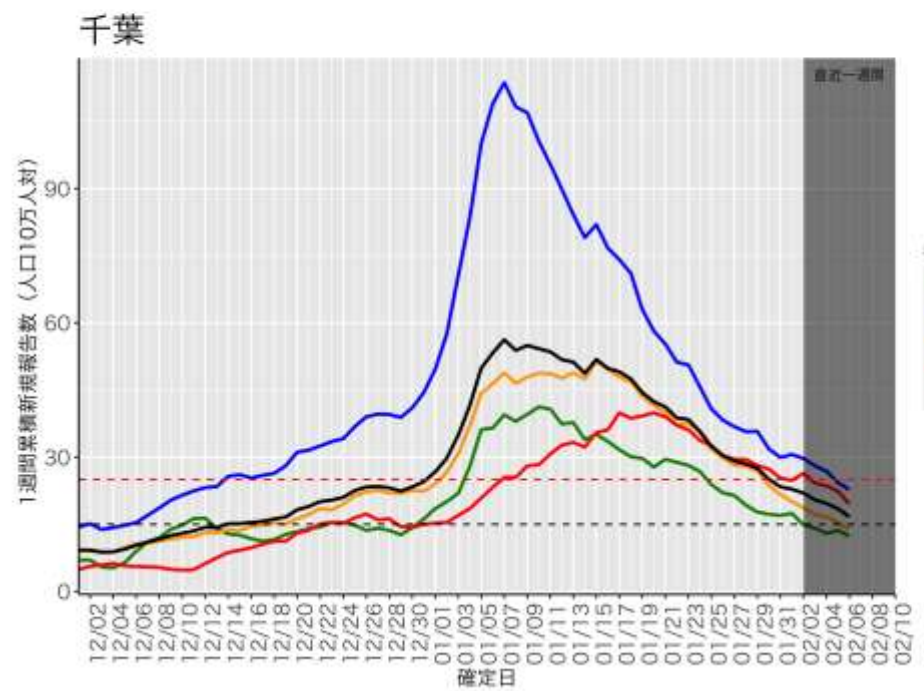
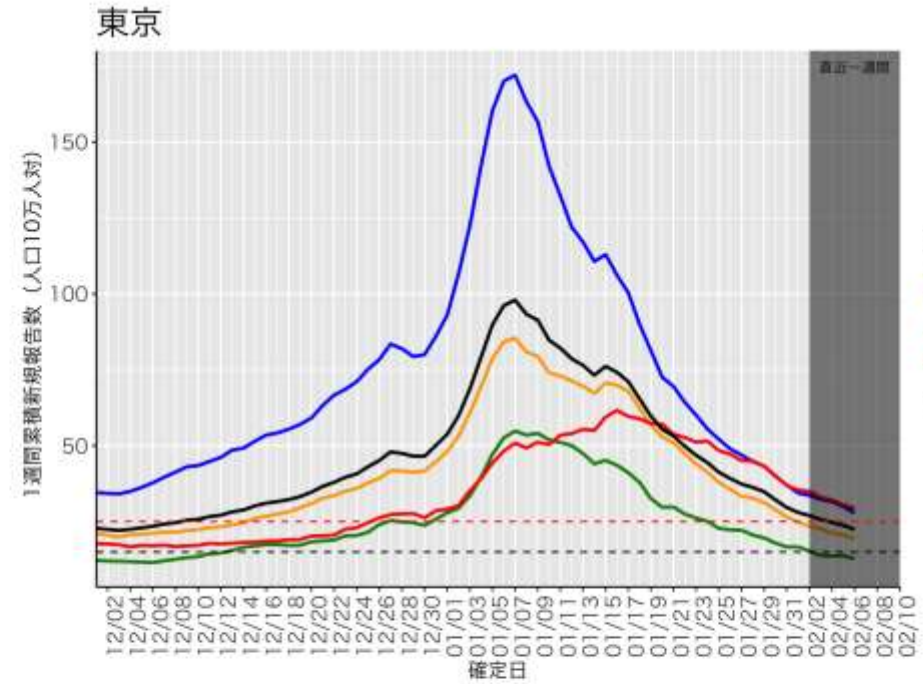
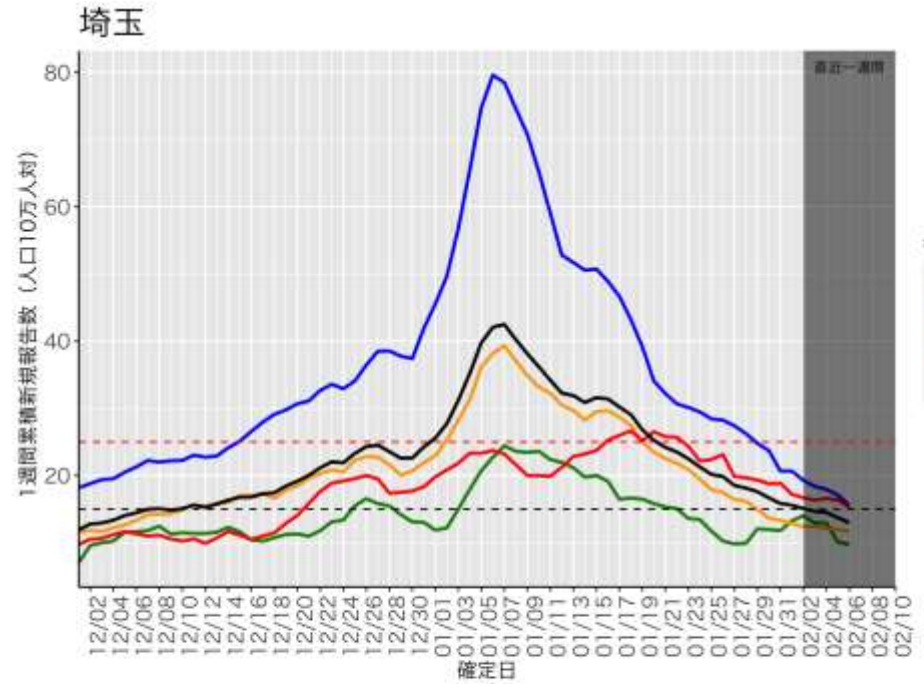
福岡県：全世代で減少傾向であるが、20-30歳代の減少が鈍い

沖縄県：依然として20-30歳代、高齢世代の新規発生数が多い

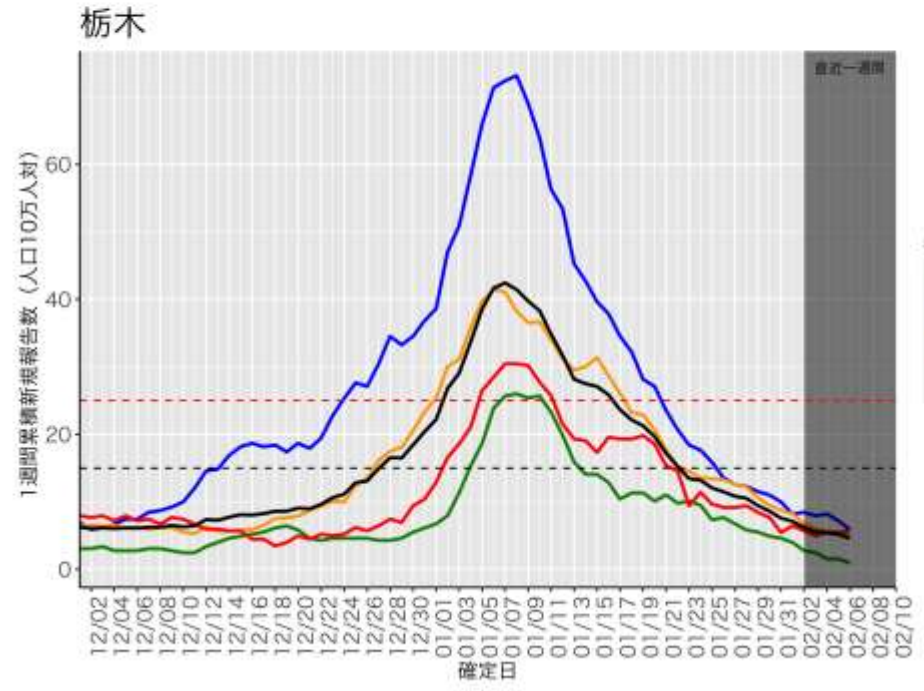
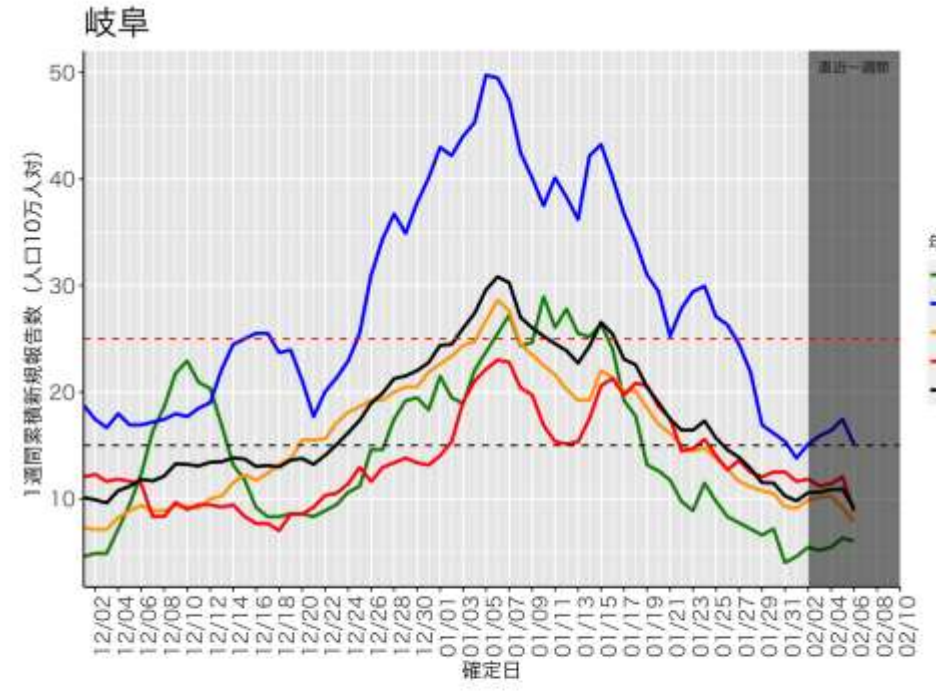
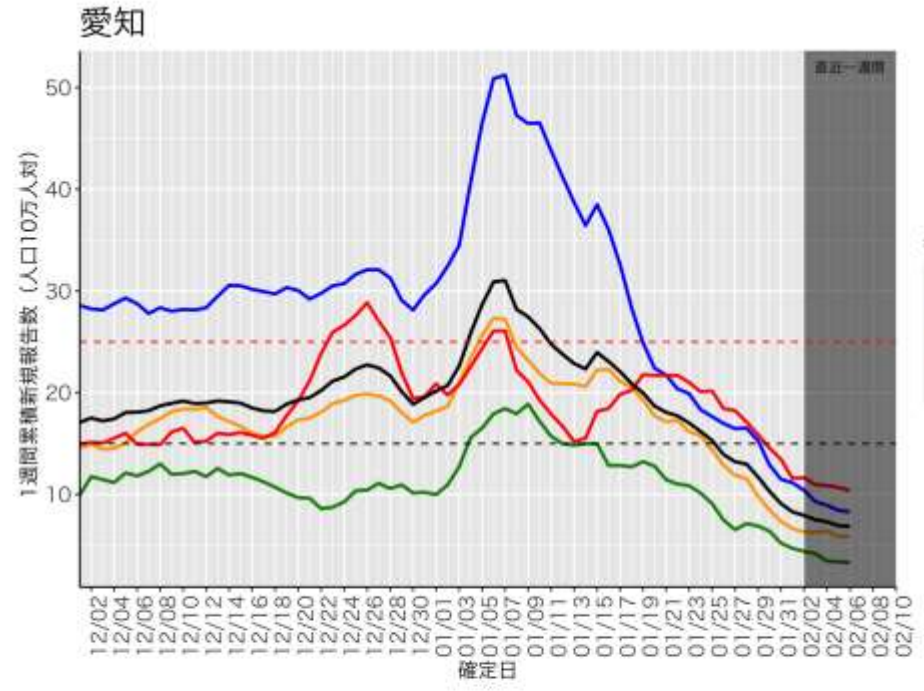
HER-SYSデータ



HER-SYSデータ

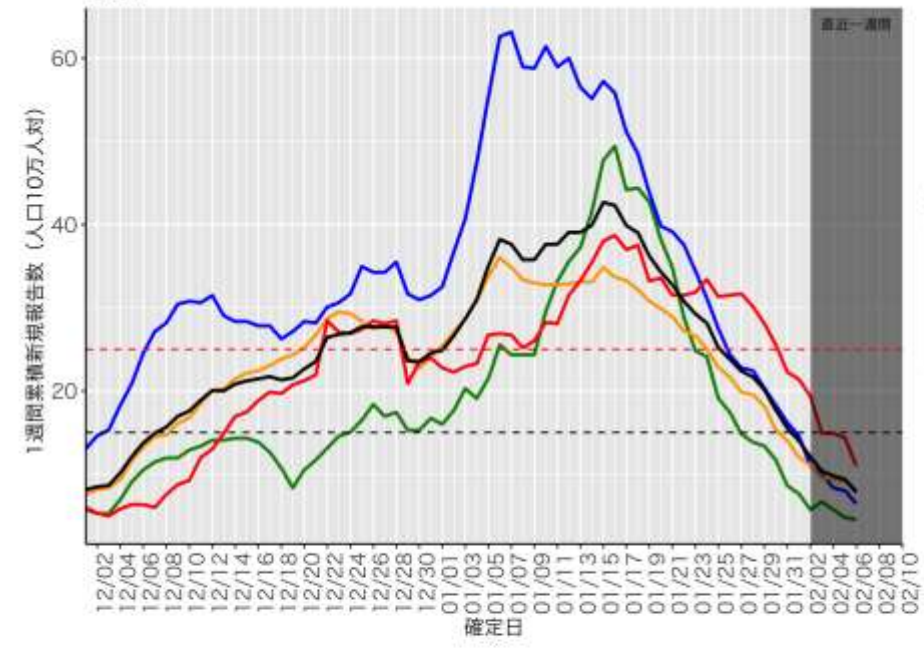


HER-SYSデータ

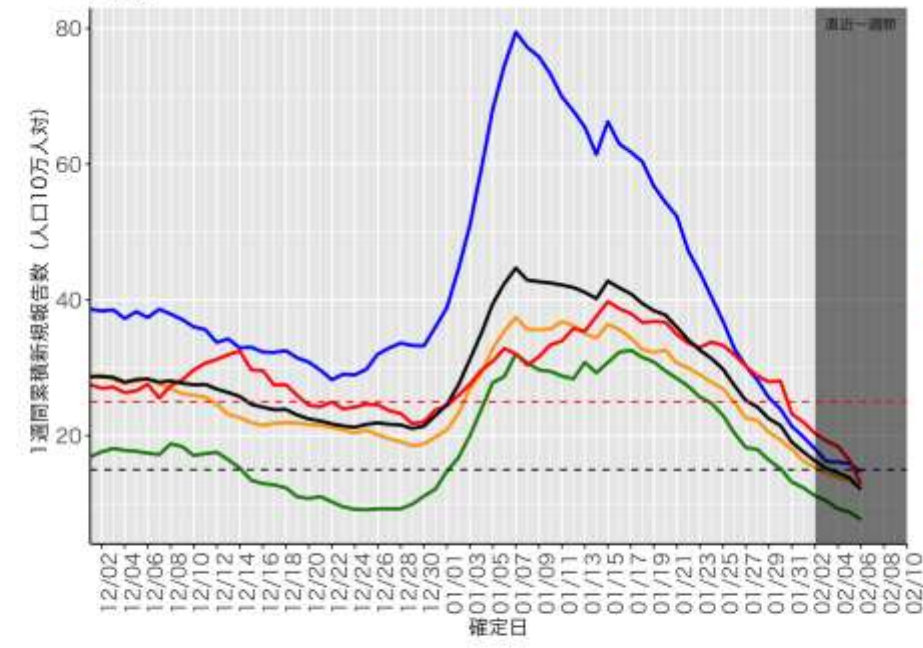


HER-SYSデータ

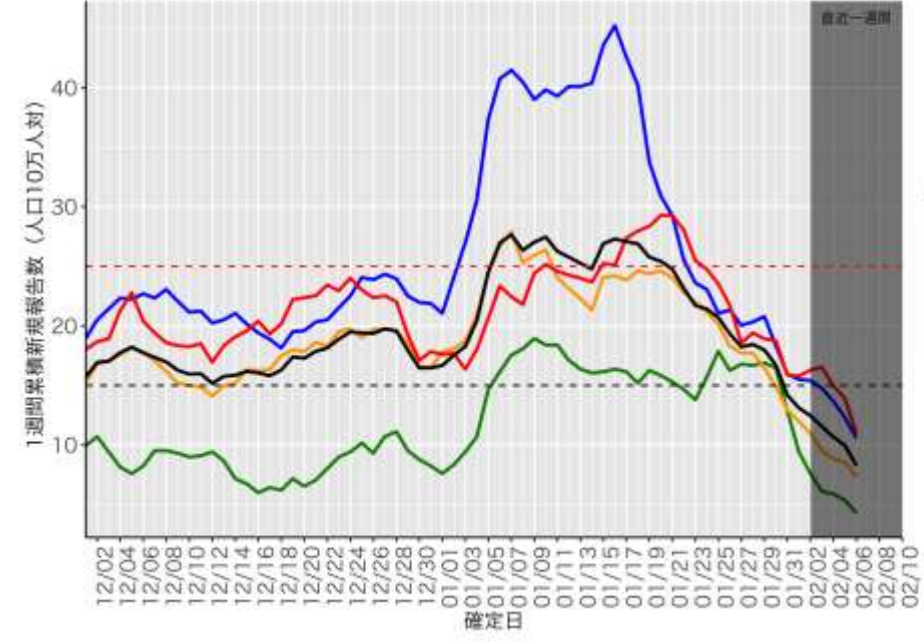
京都



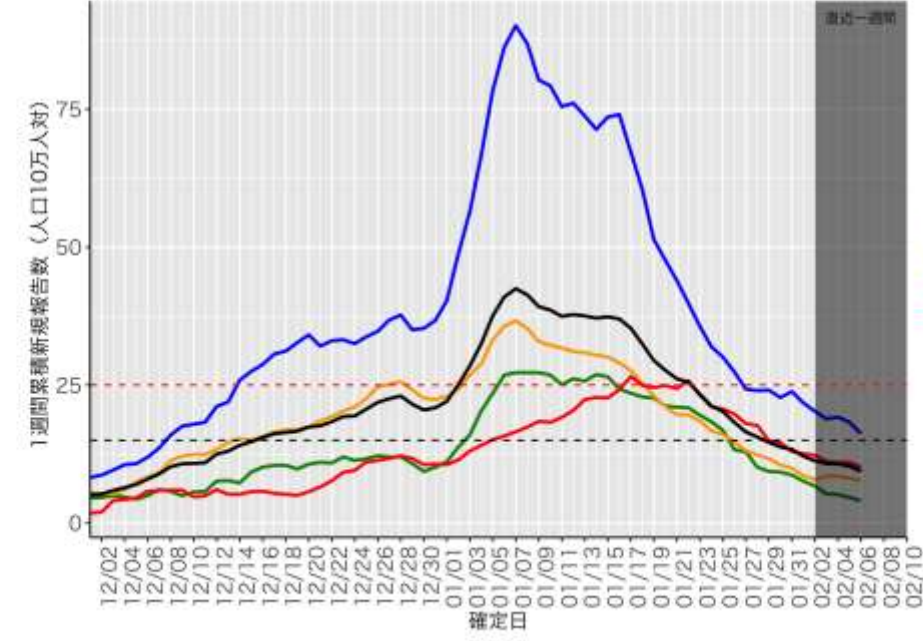
大阪



兵庫

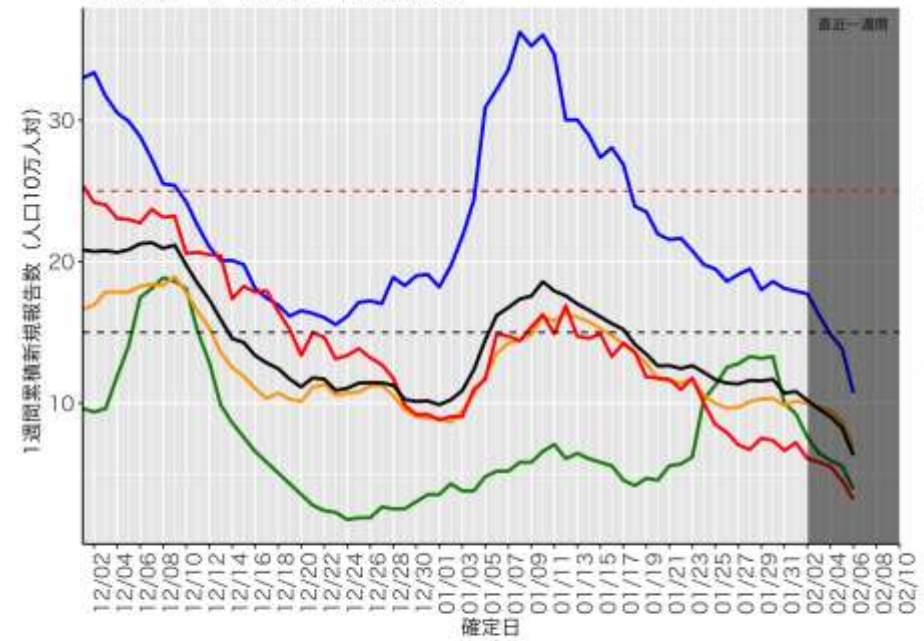


福岡

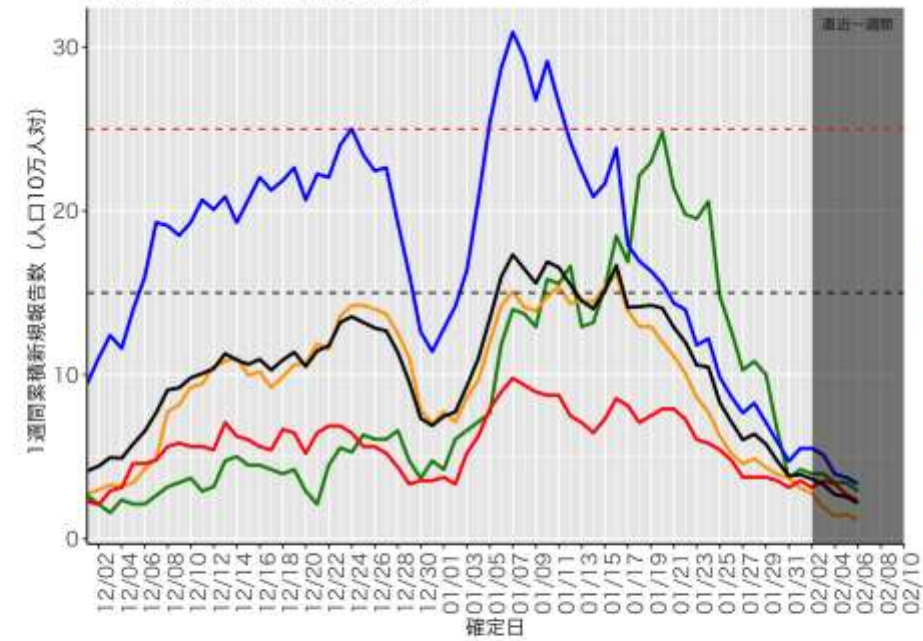


自治体公開 情報データ

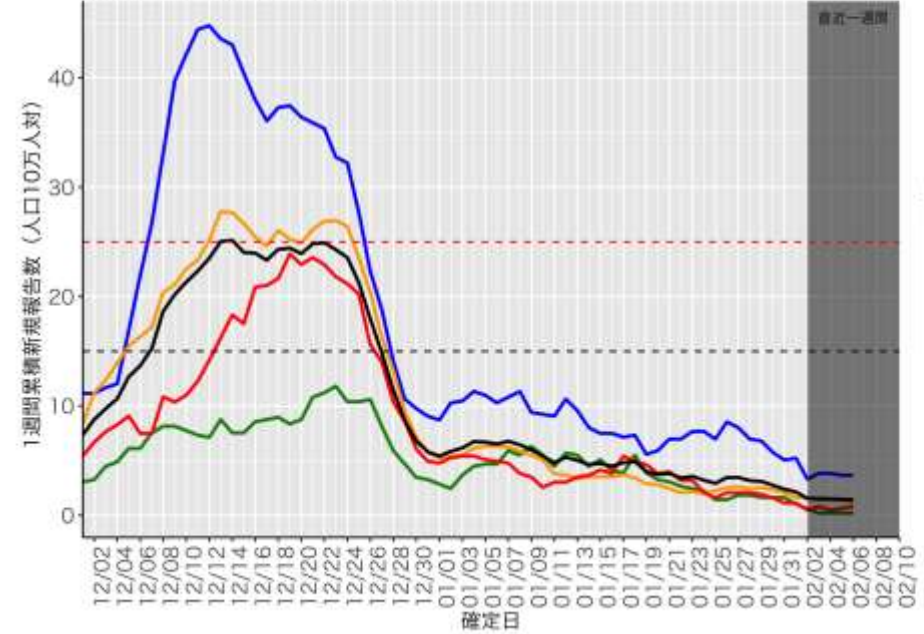
北海道（自治体公開情報）



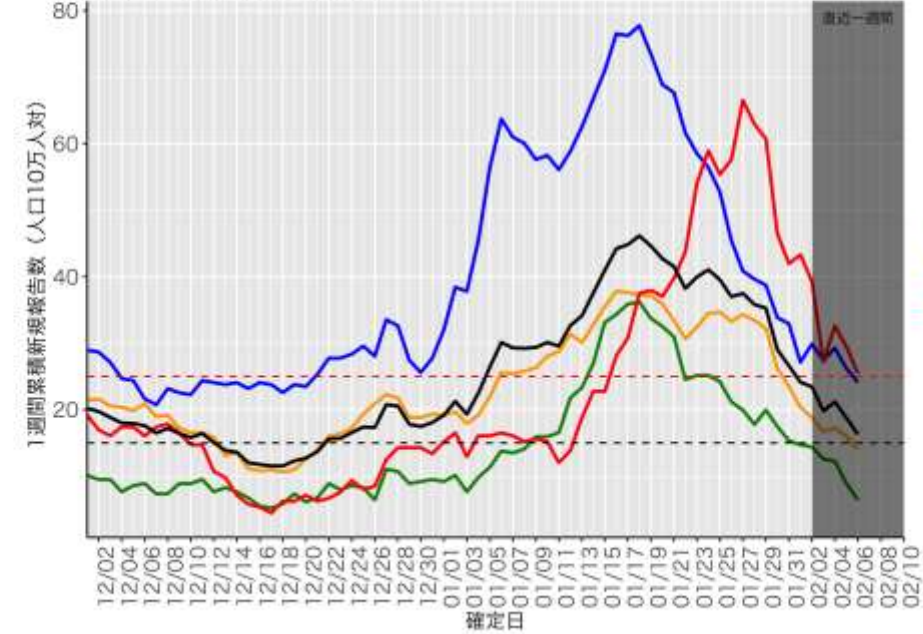
宮城（自治体公開情報）



広島（自治体公開情報）

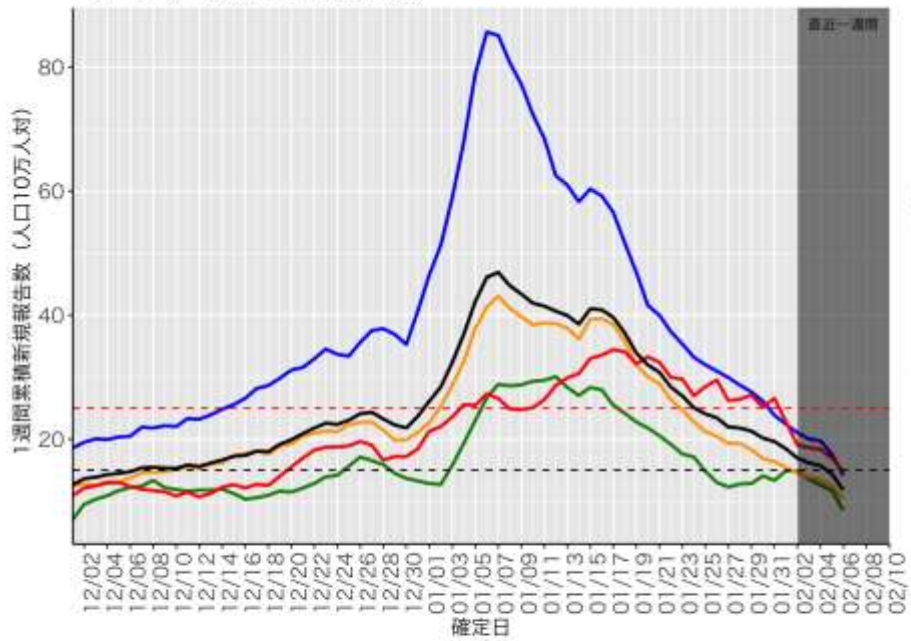


沖縄（自治体公開情報）

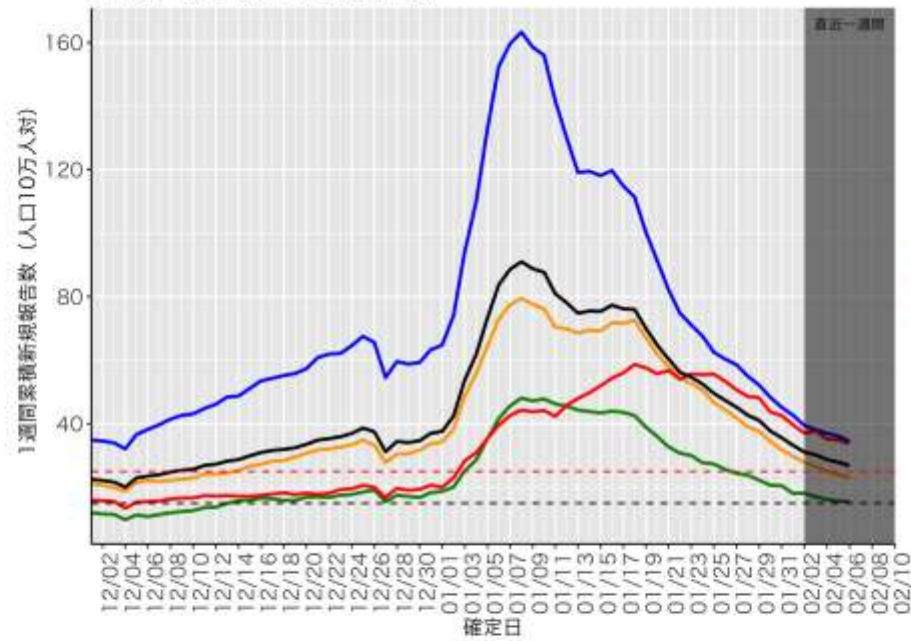


自治体公開 情報データ

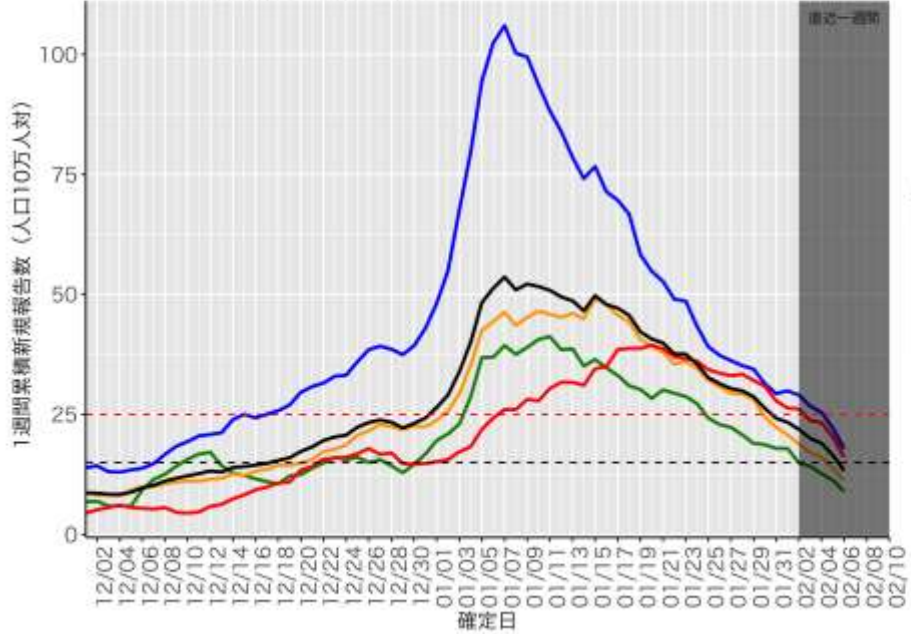
埼玉 (自治体公開情報)



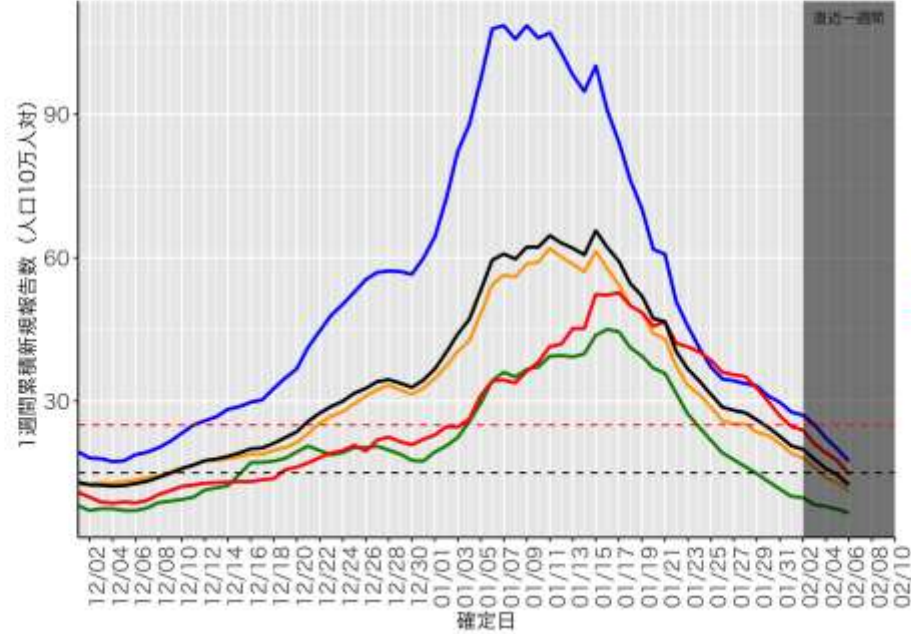
東京 (自治体公開情報)



千葉 (自治体公開情報)

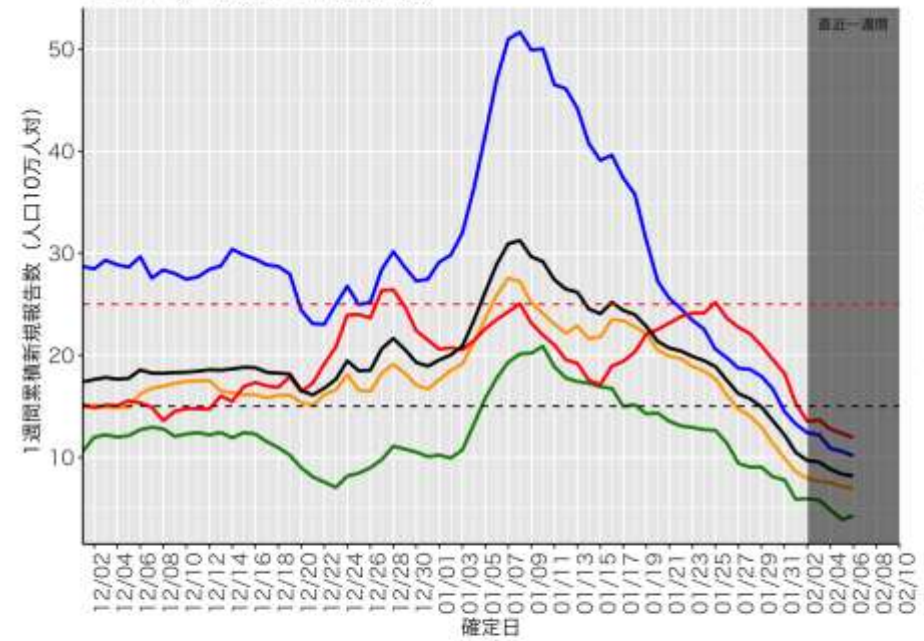


神奈川 (自治体公開情報)

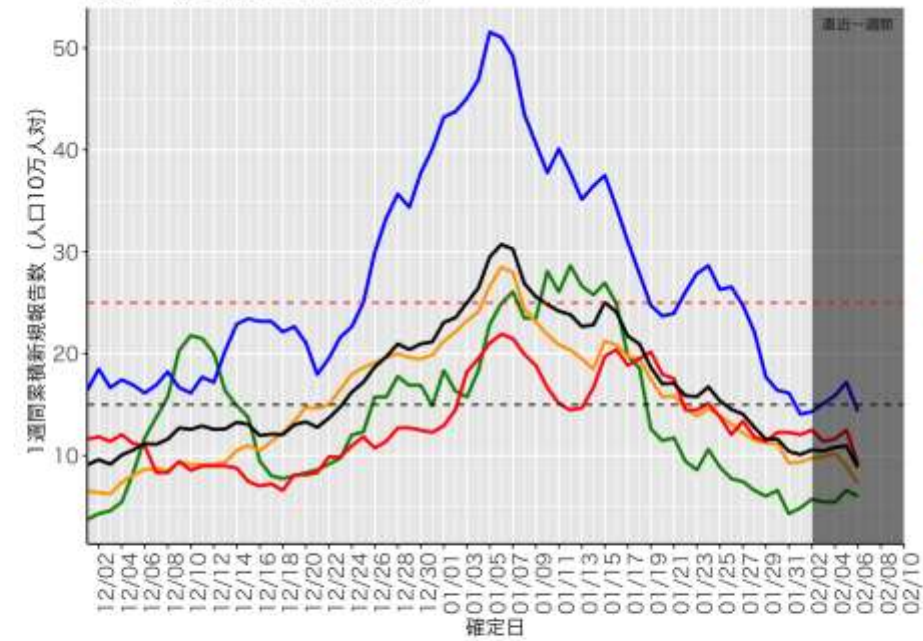


自治体公開 情報データ

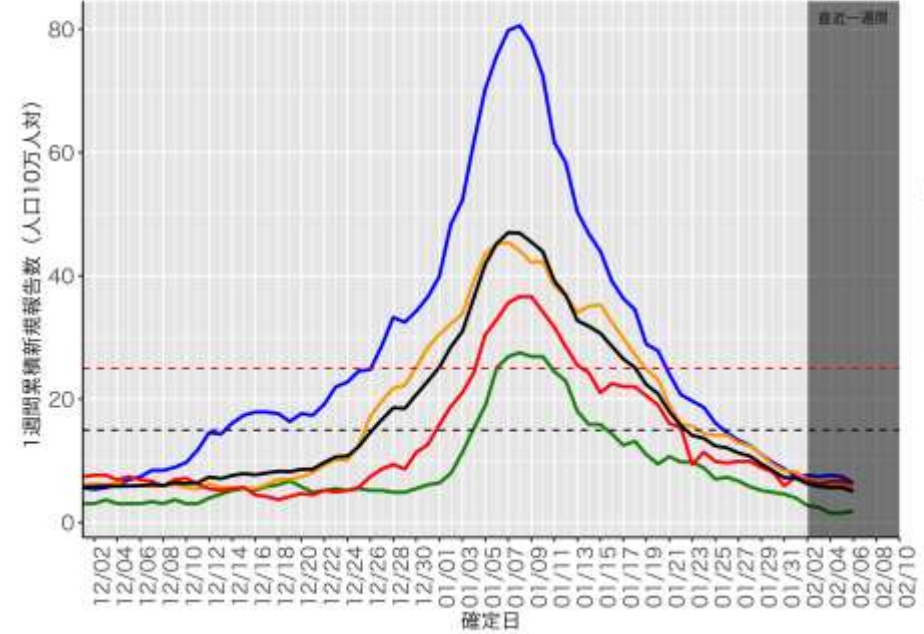
愛知（自治体公開情報）



岐阜（自治体公開情報）

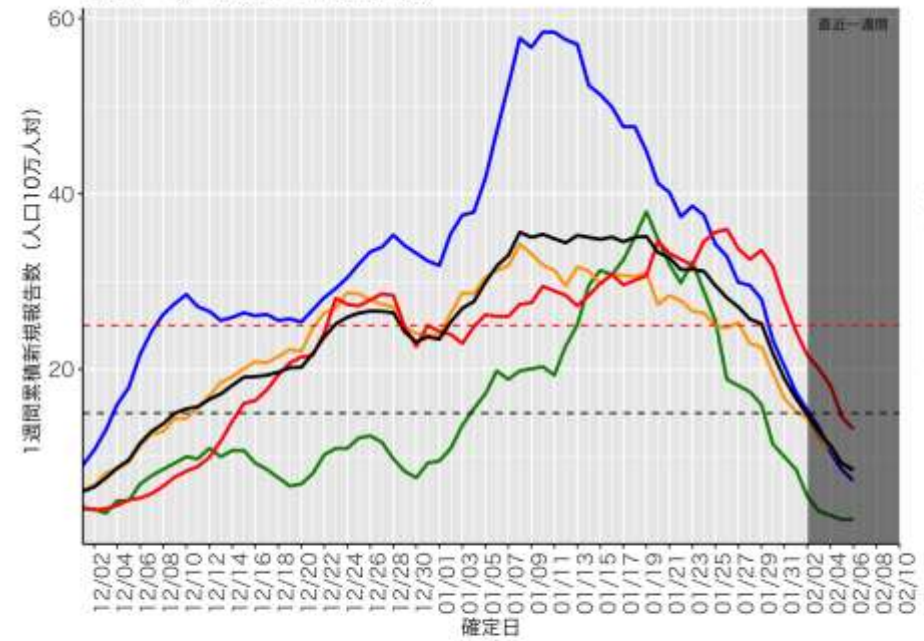


栃木（自治体公開情報）

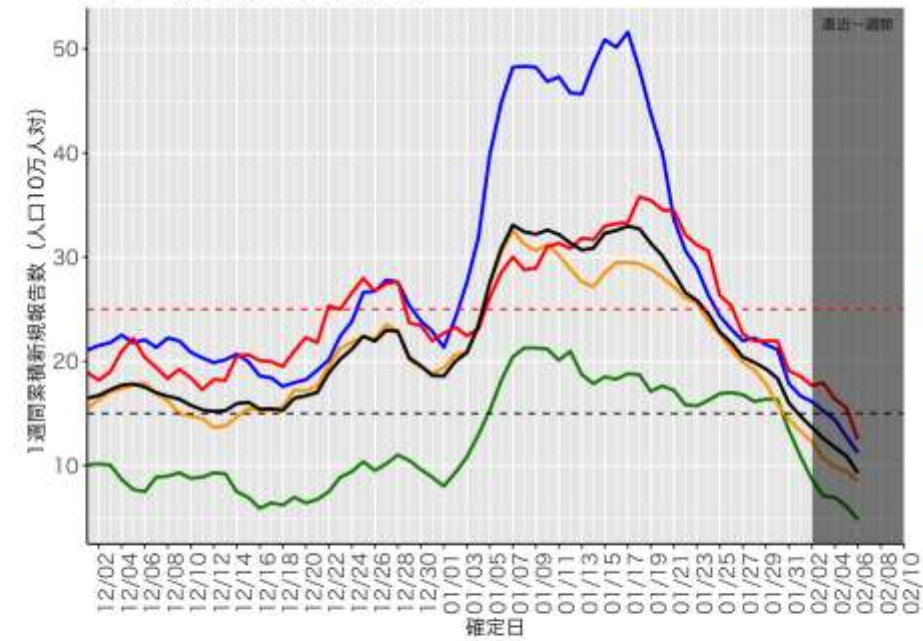


自治体公開 情報データ

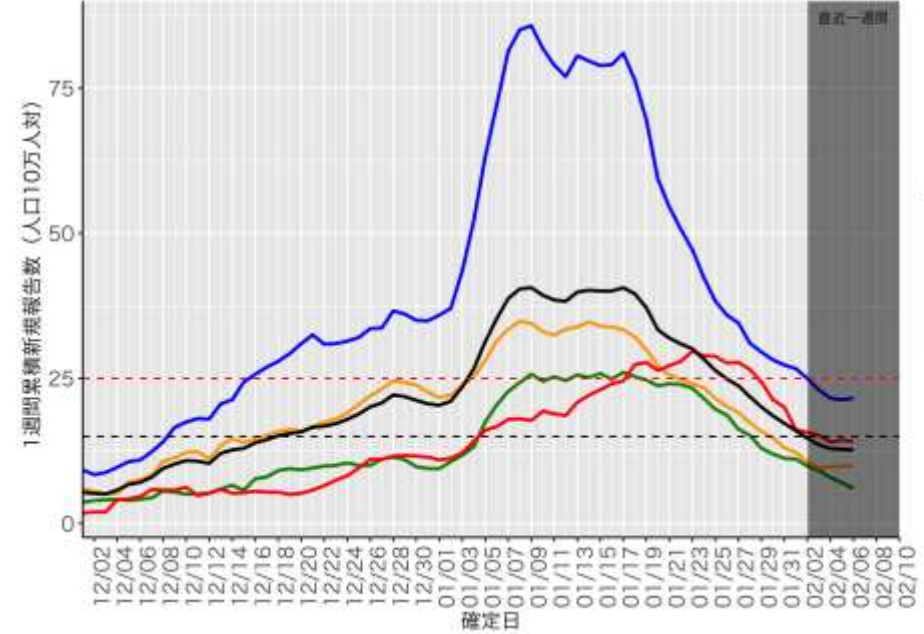
京都（自治体公開情報）



兵庫（自治体公開情報）



福岡（自治体公開情報）



人口10万人あたりの1週間新規感染者数マップ

都道府県単位

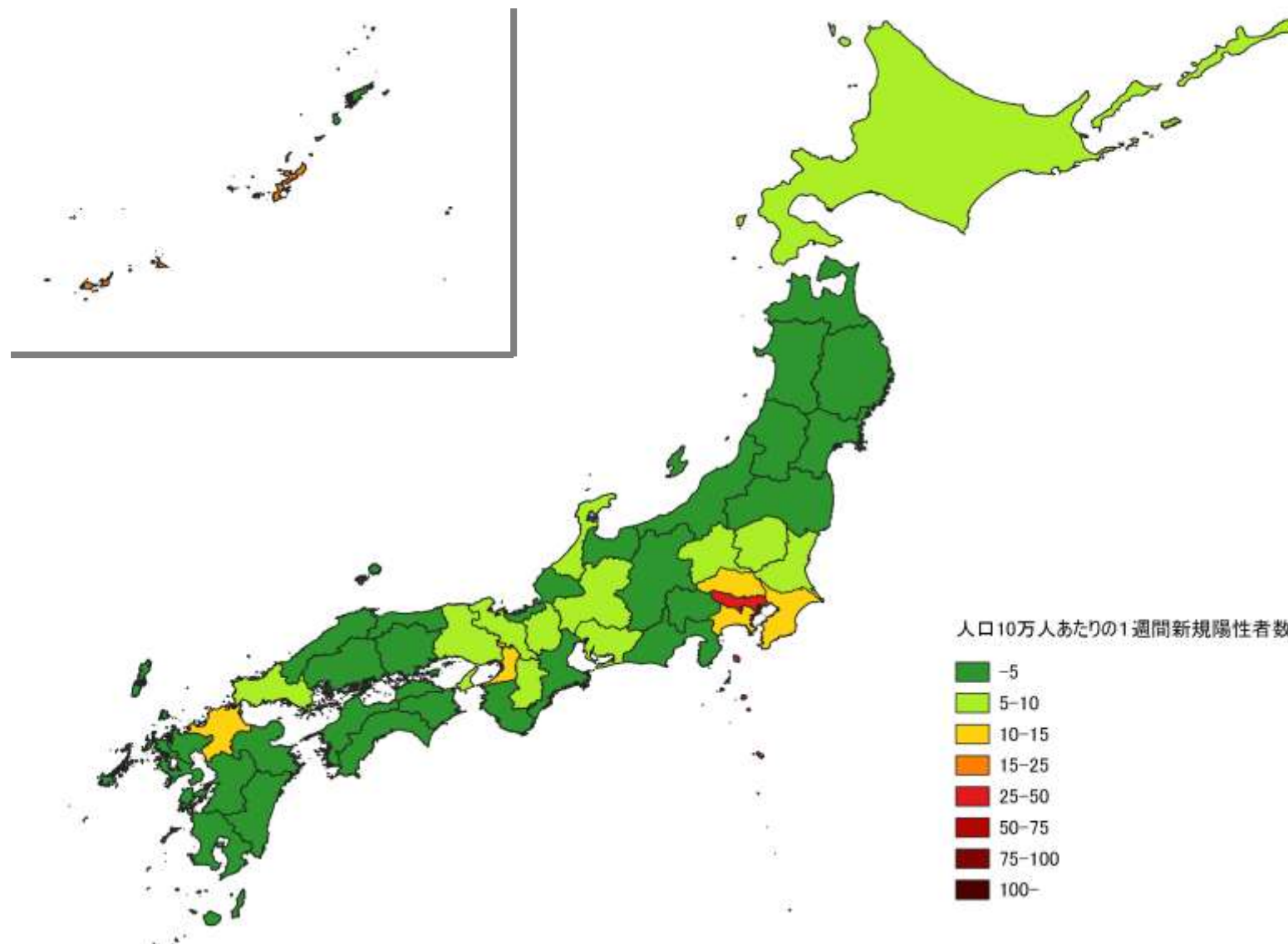
- 自治体公開情報の2021年2月10日時点（2月9日公表分まで）のデータ
- 直近1週間（2/3~2/9）
- 確定日（公開されていない場合は報告日）ベース
- 図示しないが保健所管区別の分析も実施した

<要点>

- 都道府県単位では、直近では東京都のみがステージ4相当
- 都内では都心部がステージ4相当であるが周辺はステージ3相当
- 関西圏は概ねステージ2相当に減少
- 愛知県・岐阜県もステージ2相当であるが、岐阜県の一部地域はステージ4相当
- 福岡県もステージ2相当であるが、一部地域はステージ4相当
- 福島県、長野県、熊本県の一部にステージ4相当の地域がある
- 沖縄県はステージ3相当

都道府県別 直近1週間 (2/3~2/9)

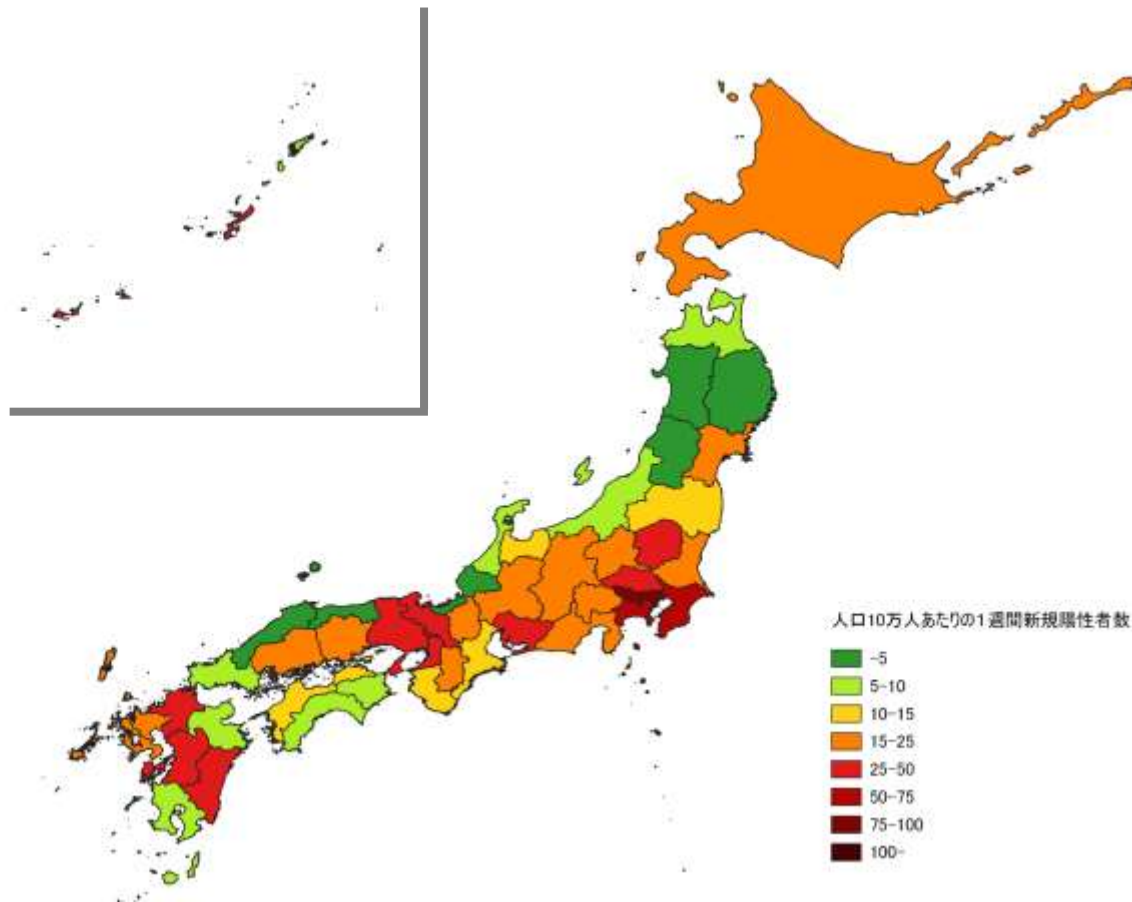
自治体公開情報
2021/2/10 時点



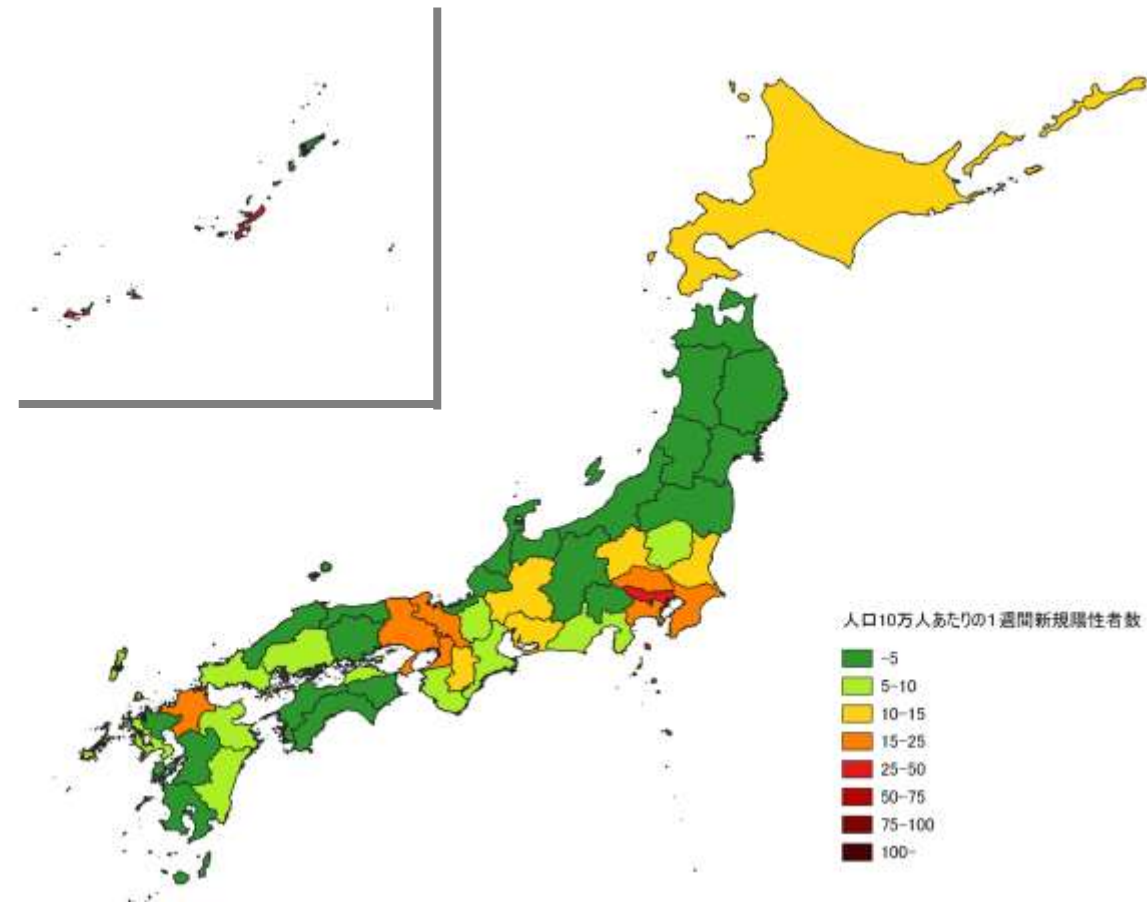
都道府県別

自治体公開情報
2021/2/10 時点

1/7~1/13



1/28~2/3



緊急事態宣言発令以降の人流の変化

要点

- 11月から12月にかけて自治体ごとに出された営業時間短縮要請によって、人流が明らかに低下した地域（大阪、名古屋）と、変化が乏しかった地域（東京、神奈川、千葉）があった。
- 12月26日から年末にかけて全国的に人流の低下がみられた。
- 関東地方で緊急事態宣言が発令された後、関東以外の地域でも夜間の人流の低下が観察されている。低下のピークは1月第3-4週目で6～57.3%の減少がみられたが、その後ゆるやかに増加している。
- 一方、朝の人流は緊急事態宣言前（1/7）と比べて全国的にやや低下～横ばいで推移し、特に主要駅ではゆるやかな上昇傾向がみられる地域がある。

人流データは株式会社Agoopのものを用いた。グラフは移動平均値(前後3日)を表す。また1月7日の値を基準としたときの増減率を算出した。

東京 歌舞伎町

朝8時台 夜10時台

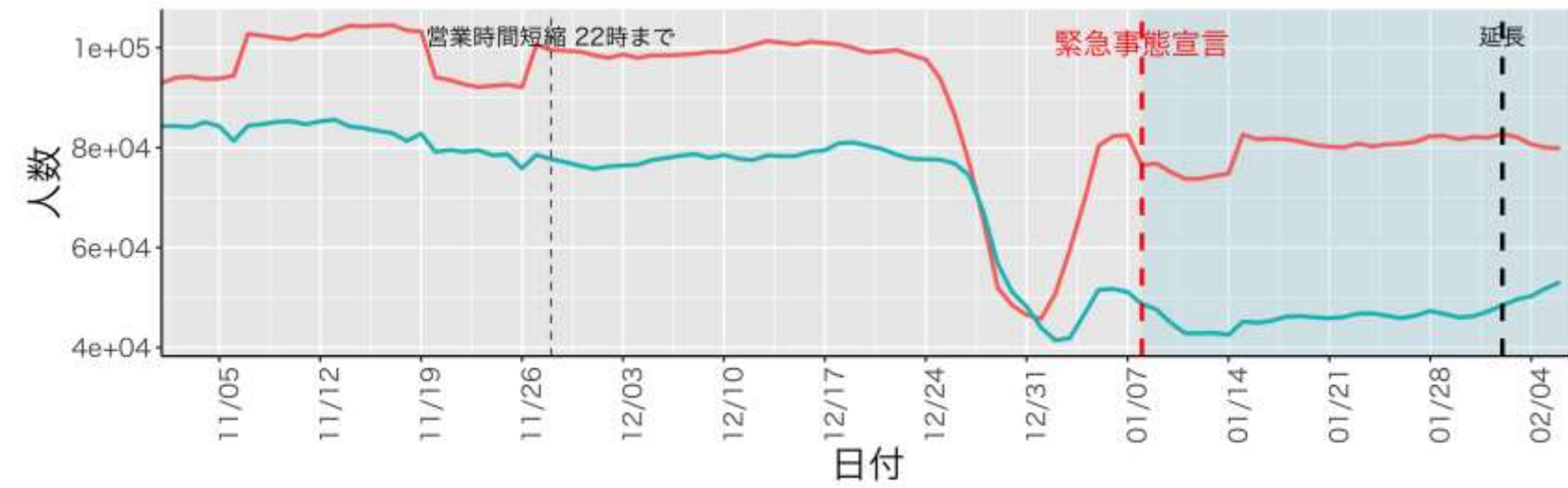


	緊急事態宣言以降 最大減少率	2/6時点
朝8時	-8.2%	-8.2%
夜10時	-12.3%	-10.3%

*1/7との比較

新宿駅

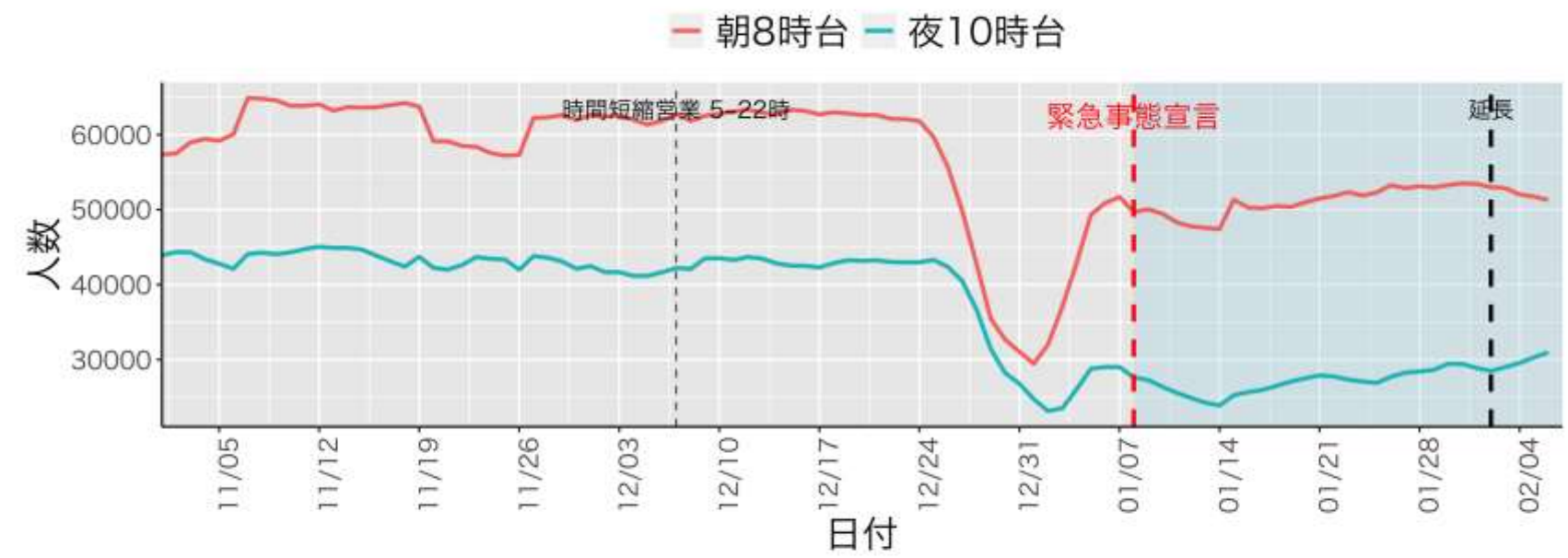
朝8時台 夜10時台



	緊急事態宣言以降 最大減少率	2/6時点
朝8時	-11.9%	-3.3%
夜10時	-20.1%	3.7%

*1/7との比較

神奈川 横浜駅



	緊急事態宣言以降 最大減少率	2/6時点
朝8時	-9%	-0.8%
夜10時	-21.5%	6.3%

*1/7との比較

川崎駅

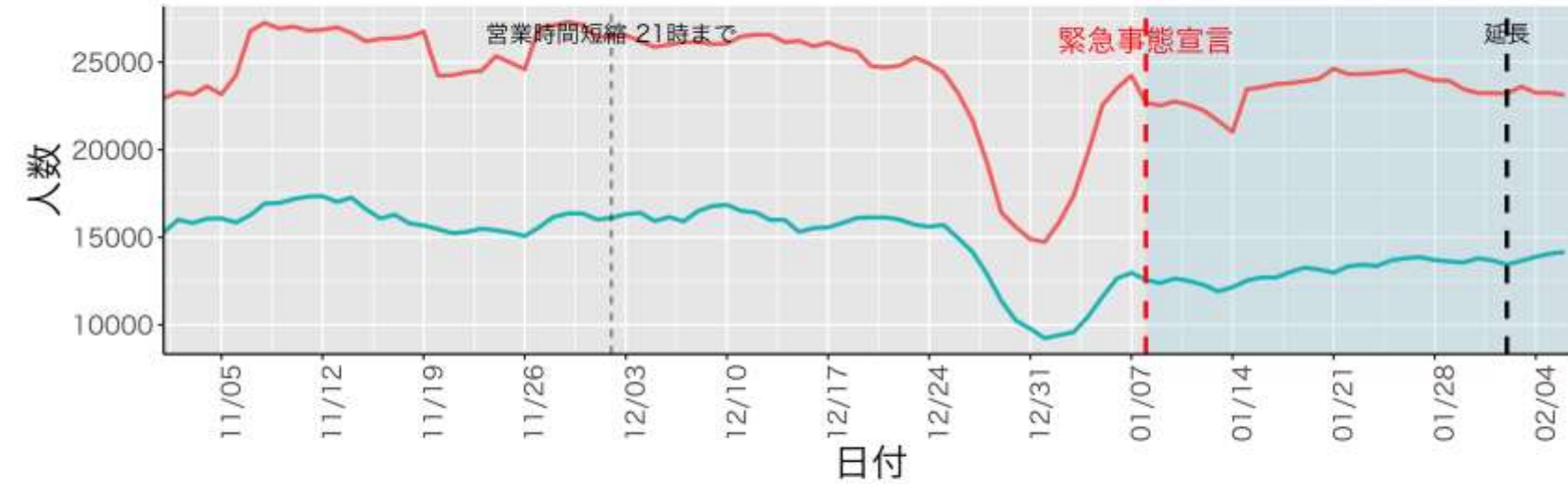


	緊急事態宣言以降 最大減少率	2/6時点
朝8時	-8.9%	1.5%
夜10時	-12.4%	1.5%

*1/7との比較

千葉 千葉駅

— 朝8時台 — 夜10時台



	緊急事態宣言以降 最大減少率	2/6時点
朝8時	-15.3%	-4.8%
夜10時	-8.9%	8.4%

*1/7との比較

船橋駅

— 朝8時台 — 夜10時台

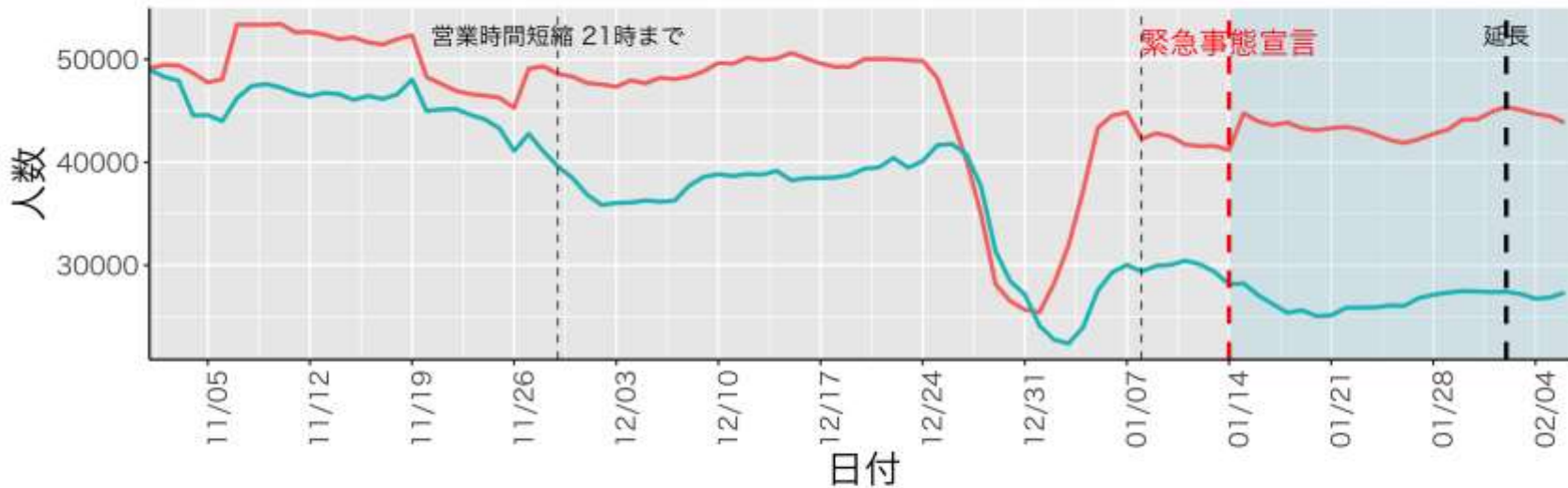


	緊急事態宣言以降 最大減少率	2/6時点
朝8時	-6.9%	-6.3%
夜10時	-6%	-1.3%

*1/7との比較

栄駅

朝8時台 夜10時台

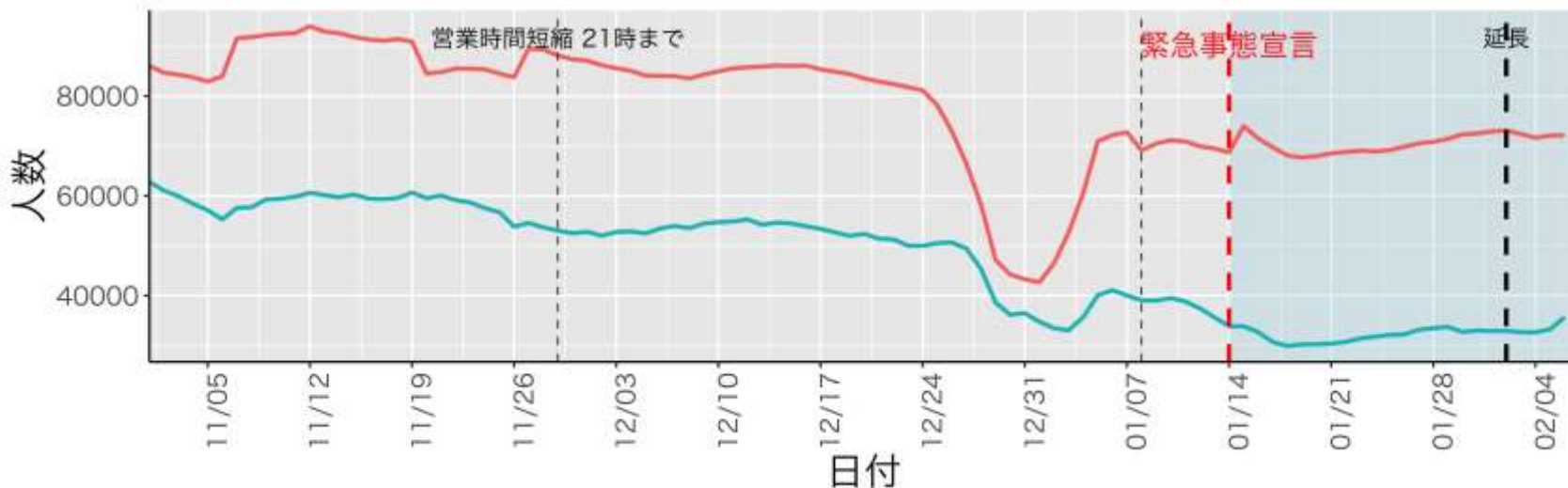


	緊急事態宣言以降 最大減少率	2/6時点
朝8時	-8.9%	-2.3%
夜10時	-19.8%	-9.8%

*1/7との比較

名古屋駅

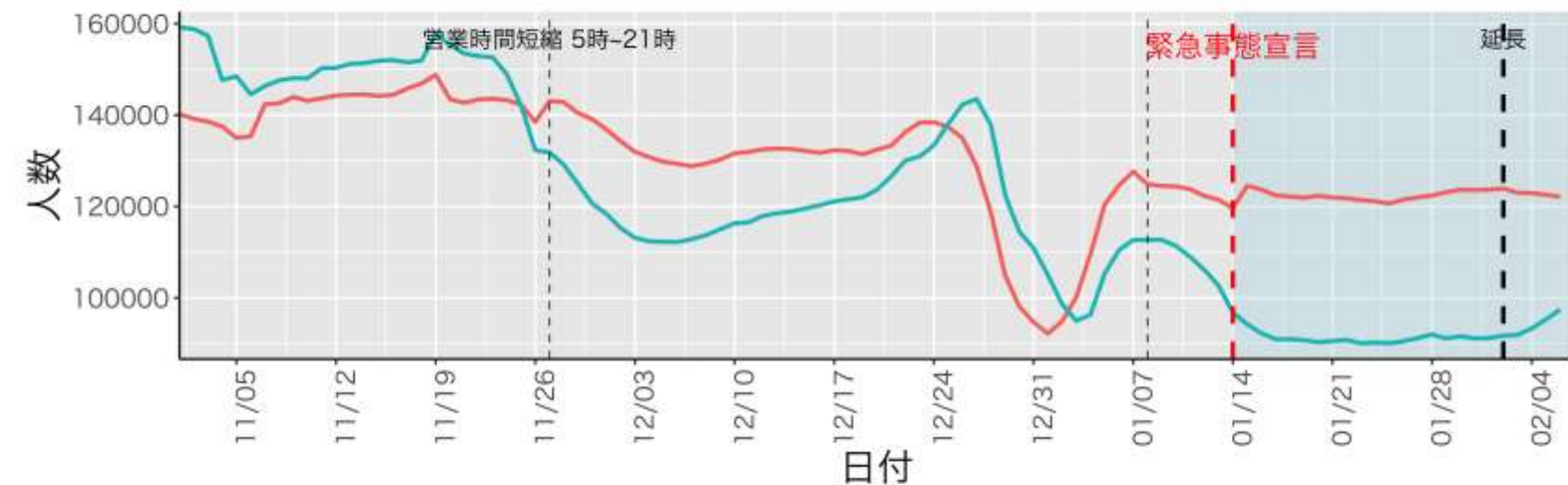
朝8時台 夜10時台



	緊急事態宣言以降 最大減少率	2/6時点
朝8時	-7.5%	-0.8%
夜10時	-33.8%	-12.2%

*1/7との比較

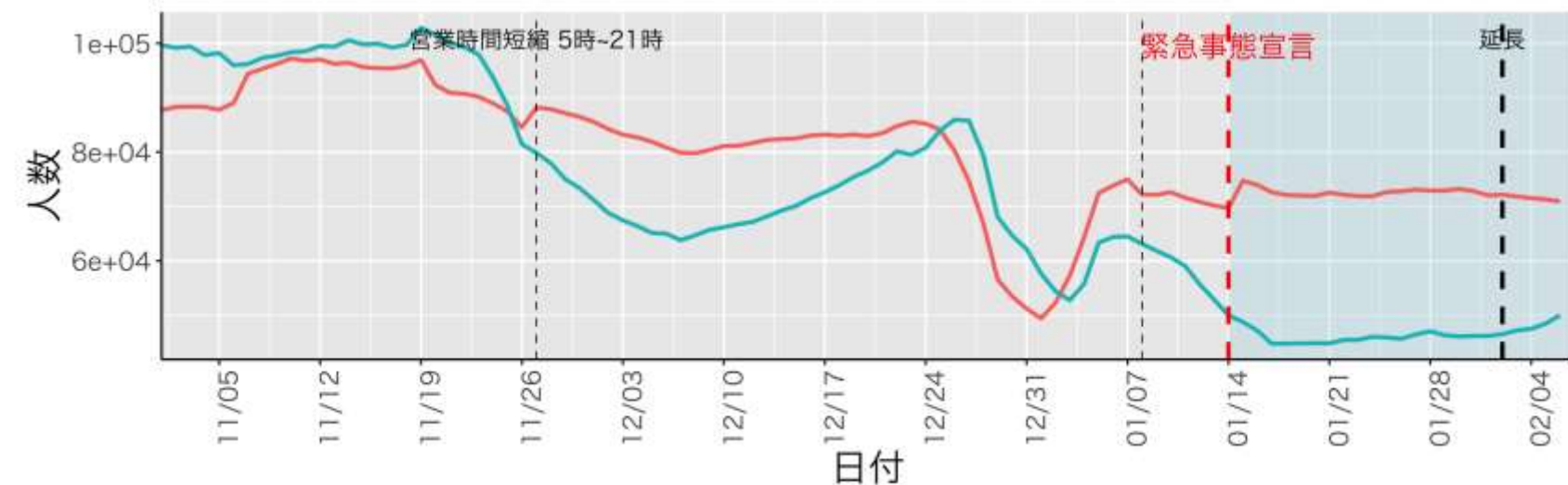
朝8時台 夜10時台



	緊急事態宣言以降 最大減少率	2/6時点
朝8時	-6.7%	-4.6%
夜10時	-25.1%	-15.7%

梅田駅

朝8時台 夜10時台

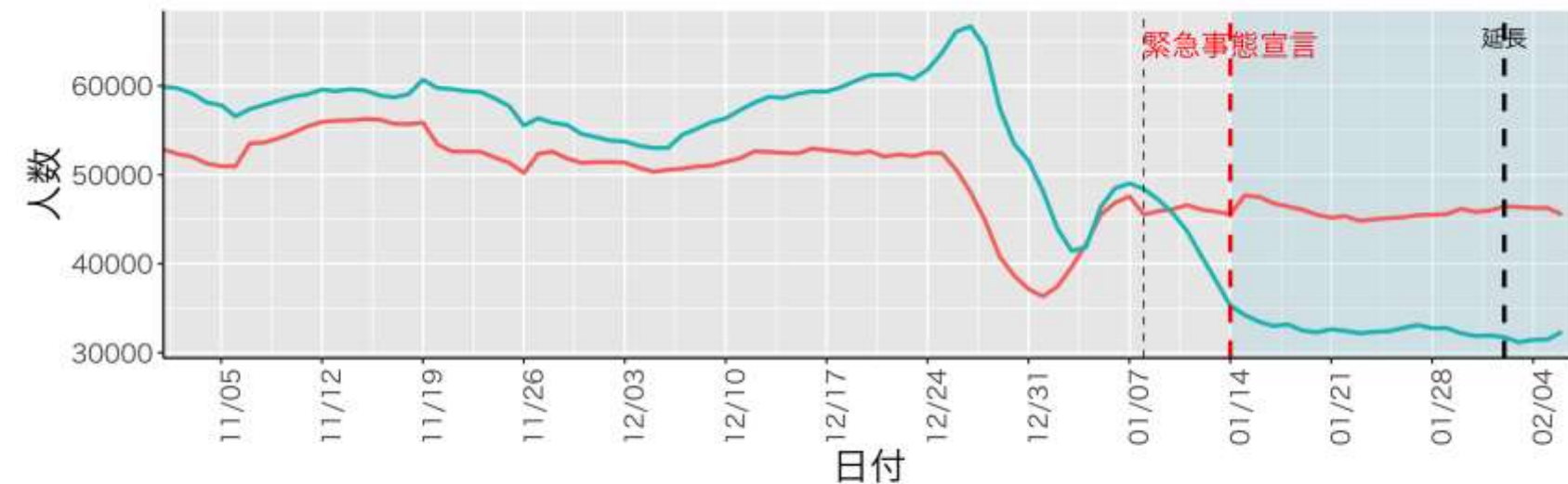


	緊急事態宣言以降 最大減少率	2/6時点
朝8時	-7.6%	-5.7%
夜10時	-44%	-29%

*1/7との比較

兵庫 三ノ宮駅

— 朝8時台 — 夜10時台

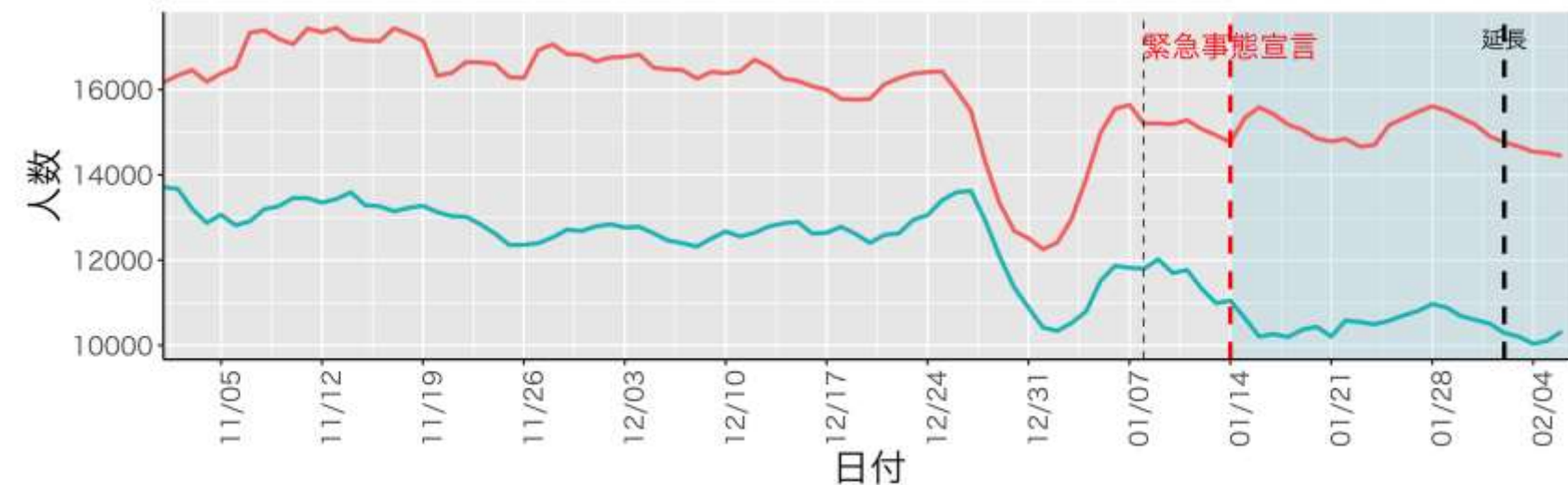


	緊急事態宣言以降 最大減少率	2/6時点
朝8時	-6.1%	-4.5%
夜10時	-57.3%	-51.5%

*1/7との比較

神戸市 元町エリア (南京町)

— 朝8時台 — 夜10時台

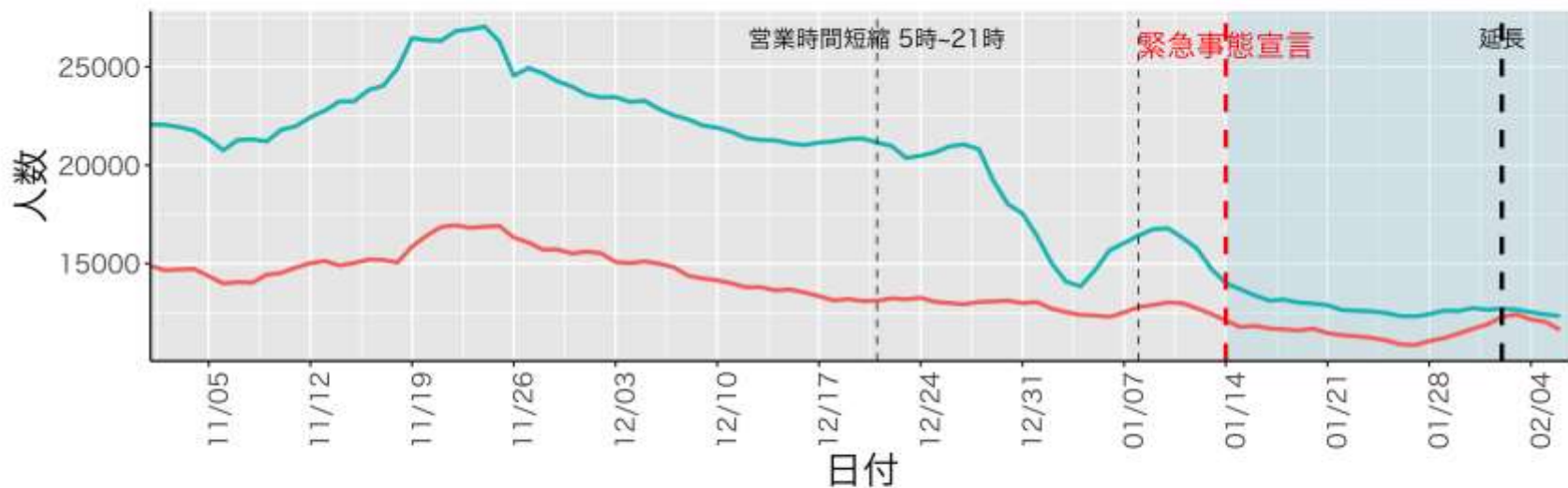


	緊急事態宣言以降 最大減少率	2/6時点
朝8時	-8.3%	-8.3%
夜10時	-17.7%	-14.5%

*1/7との比較

京都 祇園

— 朝8時台 — 夜10時台

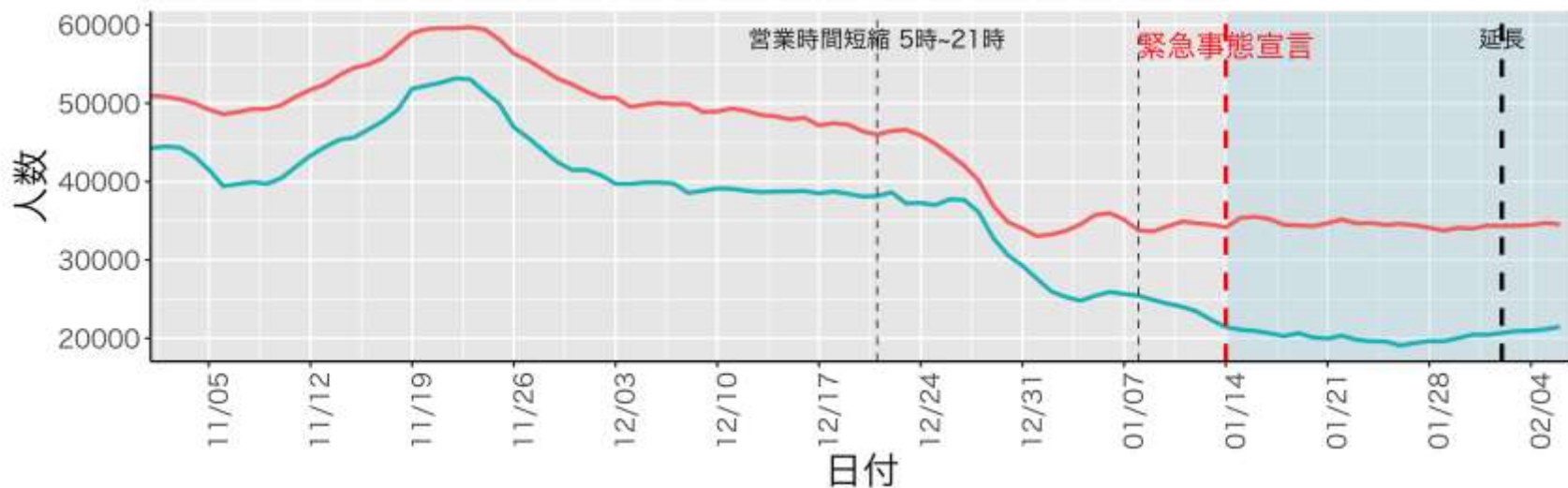


	緊急事態宣言以降 最大減少率	2/6時点
朝8時	-15.3%	-7.6%
夜10時	-30.2%	-29.9%

*1/7との比較

京都駅

— 朝8時台 — 夜10時台

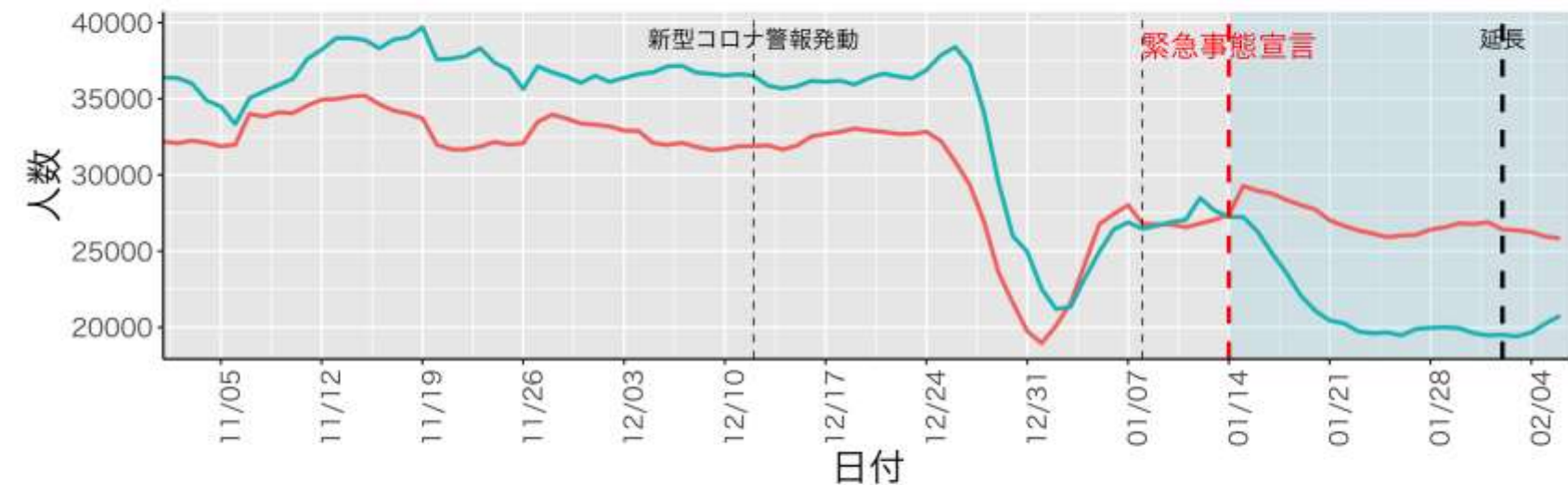


	緊急事態宣言以降 最大減少率	2/6時点
朝8時	-4.5%	-1.7%
夜10時	-34.5%	-19.6%

*1/7との比較

福岡 中洲川端駅

— 朝8時台 — 夜10時台

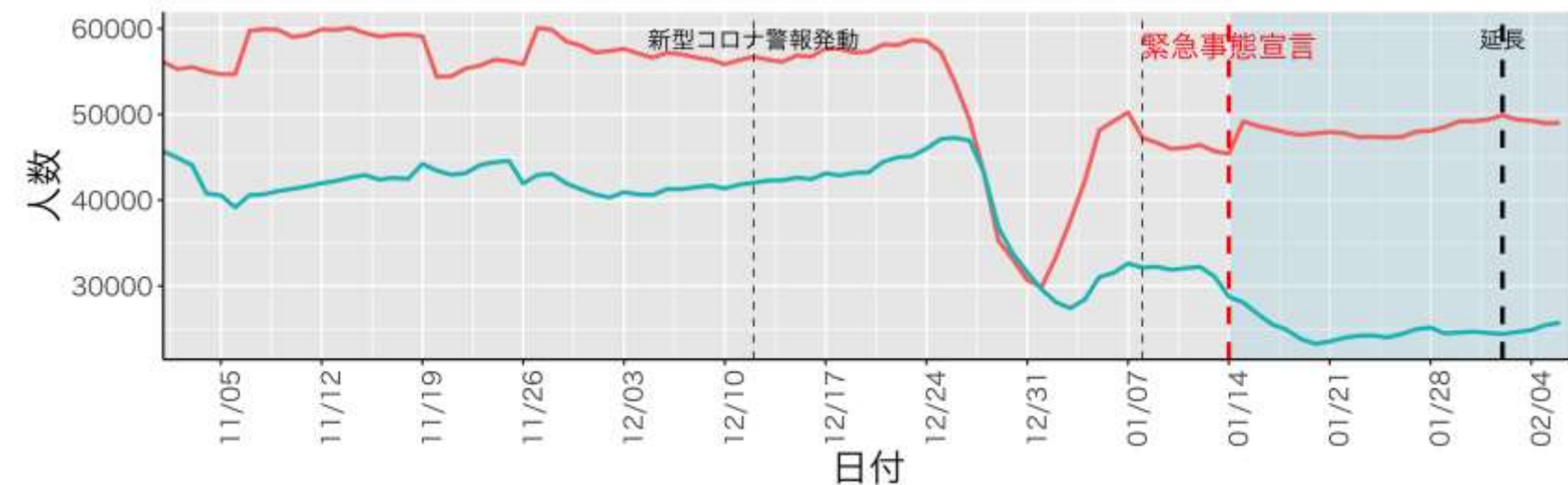


	緊急事態宣言以降 最大減少率	2/6時点
朝8時	-8.4%	-8.4%
夜10時	-38.6%	-29.5%

*1/7との比較

天神駅

— 朝8時台 — 夜10時台



	緊急事態宣言以降 最大減少率	2/6時点
朝8時	-10.6%	-2.5%
夜10時	-40.2%	-26.8%

*1/7との比較